挿図番号	遺構番号	平面形	規模（m）			長軸方向	断面形	備考
			長径	短径	深さ			
第262図	SK 6	長方形	1.15	0.88	0.50	N－70°－W	U字形	
〃	SK 7	不整方形	2.60	2.00	0.30	N－76°－W	皿形	
〃	SK 8	隅丸長方形	4.85	2.25	0.45	N－18°－E	U字形	
第263図	SK 9	隅丸方形	3.65	3.18	0.34	N－21°－E	逆台形	
第264図	SK 10	円形	1.10	——	0.30	———	〃	
〃	SK 11	不整長方形	3.00	2.40	0.18	N－12°－E	〃	
〃	SK 12	円形	1.55	——	0.50	———	〃	
第265図	SK 13	〃	1.30	——	0.35	———	箱形	
〃	SK 14	不整方形	2.35	2.00	0.30	N－18°－E	皿形	
〃	SK 15	不整形	1.70	0.52	0.15	N－55°－E	〃	
〃	SK 16	不整長円形	2.63	0.85	0.12	N－76°－W	〃	
第266図	SK 17	不整形	2.03	1.70	0.20	N－25°－E	〃	
〃	SK 18	長円形	1.04	0.90	0.11	N－60°－E	〃	
〃	SK 19	〃	0.90	0.68	0.15	N－50°－E	〃	
〃	SK 20	〃	0.95	0.48	0.12	N－81°－W	〃	
〃	SK 21	〃	0.90	0.65	0.80	N－10°－W	U字形	
〃	SK 22	瓢箪形	2.85	0.85	0.36	N－70°－W	皿形	
第267図	SK 23	不整方形	1.10	0.75	0.15	N－11°－W	〃	
〃	SK 24	長円形	1.00	0.85	0.30	N－90°－E	箱形	
〃	SK 25	隅丸長方形	0.90	0.60	0.10	N－7°－E	皿形	
〃	SK 26	不整形	1.70	1.00	0.08	N－25°－E	〃	
〃	SK 27	〃	2.00	1.20	0.40	N－78°－W	〃	
〃	SK 28	不整円形	0.85	——	0.16	———	〃	
〃	SK 29	不整形	2.70	1.75	0.08	N－16°－W	〃	
第268図	SK 30	〃	2.32	2.10	0.28	———	箱形	
〃	SK 31	〃	1.75	0.50	0.10	N－35°－W	〃	
〃	SK 32	〃	1.20	1.00	0.10	N－56°－W	皿形	
〃	SK 33	不整方形	1.35	1.00	0.70	N－57°－W	U字形	
〃	SK 34	長円形	0.85	0.60	0.30	N－25°－E	〃	
〃	SK 35	円形	0.80	——	0.18	———	箱形	

挿図番号	遺構番号	平面形	規模（m）			長軸方向	断面形	備考
			長径	短径	深さ			
第268図	SK36	円形	0.80	——	0.16	———	箱形	
第269図	SK37	長方形	2.15	0.90	0.35	N－27°－E	U字形	
〃	SK38	〃	1.20	0.50	0.15	N－83°－W	逆台形	
〃	SK39	〃	3.75	2.00	0.20	N－68°－W	〃	
〃	SK40	不整長円形	0.90	0.70	0.50	N－17°－E	U字形	
第270図	SK41	円形	1.65	——	0.35	———	逆台形	
〃	SK42	帯状	——	0.78	0.06	N－71°－E	皿形	
〃	SK43	〃	3.68	0.68	0.12	N－83°－W	〃	
〃	SK44	不整方形	0.93	0.80	0.25	N－70°－W	箱形	
〃	SK45	不整長円形	1.70	1.00	0.42	N－18°－E	逆台形	
第271図	SK46	不整円形	1.25	1.10	0.10	N－27°－E	皿形	
〃	SK47	長円形	1.25	0.75	0.18	N－20°－E	〃	
〃	SK48	不整方形	1.00	——	0.14	———	〃	
〃	SK49	不整長円形	1.20	0.65	0.57	N－42°－W	U字形	
〃	SK50	長方形	——	1.28	0.06	N－22°－E	〃	
〃	SK51	不整円形	——	——	0.05	———	皿形	
〃	SK52	長円形	1.45	0.70	0.20	N－30°－E	逆台形	
〃	SK53	不整方形	0.80	0.70	0.20	N－60°－E	箱形	
第272図	SK54	溝状	1.45	0.15	0.05	N－14°－E	皿形	
〃	SK55	長方形	1.13	0.70	0.34	N－70°－W	U字形	
〃	SK56	不整形	1.60	0.90	0.10	N－15°－E	皿形	
〃	SK57	帯状	1.75	0.65	0.05	N－25°－E	〃	
〃	SK58	不整形	1.35	0.75	0.12	———	〃	
〃	SK59	不整長方形	1.10	0.68	0.16	N－20°－E	逆台形	
〃	SK60	〃	1.85	0.75	0.16	N－70°－W	皿形	
〃	SK61	帯状	1.75	0.30	0.07	N－18°－E	〃	
〃	SK62	〃	2.20	0.35	0.10	N－33°－E	〃	
第273図	SK63	不整方形	——	——	0.12	———	〃	
〃	SK64	帯状	4.00	0.36	0.14	N－90°－W	〃	
〃	SK65	円形	0.98	——	0.32	———	舟底形	

挿図番号	遺構番号	平面形	規模（m）			長軸方向	断面形	備考
			長径	短径	深さ			
第273図	SK 66	方形	2.60	1.95	0.20	N－14°－E	逆台形	
〃	SK 67	〃	3.45	3.05	0.30	N－70°－W	〃	
第274図	SK 68	不定形	2.90	1.41	0.10	N－76°－W	〃	
〃	SK 69	長方形	4.40	1.55	0.10	N－68°－W	〃	
〃	SK 70	不整方形	2.95	1.80	0.08	N－13°－E	〃	
〃	SK 71	不整形	2.85	1.55	0.13	N－26°－E	皿形	
〃	SK 72	方形	3.05	2.20	0.60	N－21°－E	U字形	
〃	SK 73	不整長方形	2.35	0.75	0.34	N－67°－W	逆台形	

第56表　包含層出土土器観察表

挿図番号	層位	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　態　・　文　様	手　　法	備　　考
1	第Ⅲ層	弥生土器 壺	15.2 (8.8) —— ——	頸部は滑らかに外反して立ち、口縁部は水平に屈曲する。端部は下垂し、口唇部は面をなす。頸部下端に櫛描直線文。頸胴部間に断面三角形の貼付突帯。	口縁部継ぎ足し。口縁部内面ハケ状原体を羽状文状に押圧し、その上に2～3条の沈線を配す。頸部外面縦方向、内面横方向のハケ調整。	
2	〃	〃	25.8 (5.7) —— ——	口縁部はラッパ状に外反する。外面には厚い粘土帯を貼付し、端部は下垂する。口唇部は厚く面をなす。	内面横方向、外面縦方向のハケ調整。	
3	〃	〃	10.8 (7.1) —— ——	球形の体部から口縁部は強く外反する。端部は上方につまみ上げ、口唇部は外傾する面をなす。	上胴部に右上がりの列点文をハケ状原体で施文する。	
4	〃	〃	18.8 (5.0) —— ——	口縁部は「く」の字状に外反する。端部を厚く作り、口唇部には2条の凹線文を施す。	頸部内面指頭圧痕。	
5	〃	弥生土器 甕	—— (3.1) —— 6.2	上げ底状を呈す。		
6	〃	〃	—— (6.1) —— 5.0	下胴部は直線的に外上方にのびる。		
7	〃	〃	—— (5.5) —— 5.6		外面ハケ調整。	
8	〃	弥生土器 高杯	15.6 (11.6) —— ——	口縁部は直線的に立ち上がり、下端に2条の凹線文を施す。	脚部内面左下がりのヘラ削り。	
9	〃	弥生土器 鉢	13.8 (4.3) —— ——	口縁部は内面に稜をなして屈曲し、直線的に立つ。端部を下方に拡張させ、口唇部には2条の弱い凹線文を施す。		
10	〃	弥生土器	—— (8.4) —— ——	厚いつくり。	水平方向の叩目の上を縦方向のハケ調整。	外面煤けている。
11	〃	須恵器 杯	—— (1.8) —— 6.4	高さ5㎜の高台で、端部に平らな面をなす。	器面の摩耗が激しく調整不明。	
12	〃	〃	—— (1.9) —— 8.0	高さ6㎜の高台で、端部は丸い。	〃	
13	〃	須恵器 椀	—— (2.0) —— 11.8	高さ8㎜の高台が外に踏んばる形で付く。外底は平らである。		
挿図番号	層位	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　　態	文　様　・　手　法	備　　考
14	第Ⅲ層	土師質土器 皿	14.8 (3.0) —— ——	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。端部を細く仕上げる。	口縁部内外面とも横ナデ調整。体部外面指頭圧痕。	

挿図番号	層位	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　　態	文　様　・　手　法	備　　考
15	第Ⅲ層	土師質土器 杯	—— 1.9 —— 5.8	体部は直線的に外上方に立つ。	底部回転糸切り。	
16	〃	〃	12.0 3.8 —— 5.2	体部は一旦外反し、中位で内湾気味に立ち、口縁部はやや外反する。端部を丸くおさめる。	内外面ともロクロナデ調整。	
17	〃	瓦質土器 鍋	18.6 (5.7) —— ——	胴部はやや張り出し、頸部より直線的に外上方に立つ。内面頸部に稜を形成する。	外面指頭圧痕。	
18	〃	〃	16.0 (4.9) —— ——	胴部は張り出し、口縁部は垂直に立つ。	内外面とも摩耗が激しく、調整不明。	
19	〃	〃	20.3 (7.0) —— ——	胴部は張り出す。口頸部は垂直に立ち、口縁部は外反する。口唇部は外傾する面をなす。	外面指頭圧痕。	
20	〃	擂鉢	—— (6.5) —— 14.8	体部はやや内湾気味に立つ。	条線の単位数不明。	備前焼。
21	〃	壺	—— 6.1 —— 13.0	体部は直線的に外上方に立つ。	内外面ともロクロナデ調整。	〃
22	〃	青磁 碗	16.2 (5.9) —— ——	体部は内湾して外上方に立ち、口縁部は外反する。端部は肥厚し、丸くおさめる。	内外面雷文と蓮弁文のくずれと思われる文様有り。片切彫りである。内外面とも荒い貫入有り。	
23	〃	〃	—— (2.0) —— 5.2	しっかりした高台で削りが浅い。	高台外側まで施釉。 畳付と外底は露胎する。	
24	〃	〃	—— (3.0) —— 5.2	高さ1.5cmの高台。 器壁が厚く、畳付が狭い。	高台内側まで施釉する。	
25	〃	〃	—— (2.4) —— 5.0	高さ1.3cmの高台で、やや外傾して下りる。高台内面を浅く削り、畳付は外面を削り狭くする。	高台内側まで施釉する。 内外面とも貫入有り。	
26	〃	白磁 皿	4.8 (1.5) —— ——	体部はやや内湾して外上方に立ち、口縁部に至る。 端部を丸くおさめる。	内外面とも貫入有り。	
27	〃	碗	11.4 (3.1) —— ——	口縁部は垂直に立ち、端部を細く仕上げる。	〃	伊万里系。
28	〃	皿	—— (1.8) —— 4.2	高さ5mmの削り出し高台。	体部下位にヘラ削りが残る。 内面見込に砂目が付く。	唐津系。
29	〃	碗	—— (2.6) —— 4.6	高さ5mmの高台で、やや外傾して付く。体部は内湾して外上方に立つ。	高台まで内外面とも施釉し、見込に目跡有り。	〃

挿図番号	層位	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　　態	文様・手法	備　考
30	第Ⅲ層	鉢	—— (3.7) —— 10.6	断面逆台形のしっかりした高台を有す。	体部内面に白象嵌。 見込に砂目あり。	唐津系。

第57表　包含層出土石器観察表

挿図番号	層位	器　種	計測値(cm, g) 最大長 最大幅 最大厚 重　量	材　　質	特　　徴	備　考
31	第Ⅲ層	砥石	(10.8) (7.3) 2.5 242.5	砂　岩	一面にのみ使用痕を残す。 あまり使い込まれていない。	
32	〃	〃	6.6 4.0 2.0 93.0	〃	3面を使用している。	
33	〃	〃	11.8 3.1 3.3 122.5	〃	3面を使用している。 よく使い込まれている。	
34	〃	石臼	(27.0) (13.4) 4.2 2200.0	〃	5条1単位の擂目を有す。	

第58表　遺構出土土器観察表

挿図番号	遺構番号	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　　態	文様・手法	備　考
35	SB5 P1	土錘	全　長 (5.0) 直　径 1.8 重量(g) 15.9	円筒形を呈す。		土師質。
36	SB20 P1	瓦質土器 鍋	21.7 7.3 —— ——	胴部はやや張り出し、口縁部は外反する。口唇部を丸くおさめる。	外面に指頭圧痕。	
37	SB26 P1	土師質土器 杯	12.0 3.8 —— 6.0	体部はゆるやかに外反するカーブで立ち、端部を細く仕上げる。	内外面ともロクロナデ調整。 底部回転糸切り。	
38	SB29 P1	〃	11.0 4.5 —— 6.0	体部は下位で若干屈曲し、内湾気味に立ち、口縁部に至る。端部を丸くおさめる。	〃	

挿図番号	遺構番号	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　　態	文　様　・　手　法	備　　考
39	ＳＢ30 Ｐ１	土師質土器 皿	12.0 3.1 —— ——	体部は内湾気味に立ち、口縁部に至る。端部を細く仕上げる。口縁部内面に稜を形成する。	口縁部内外面とも横ナデ調整。体部内外面とも指頭圧痕。	
40	〃	〃	12.0 3.4 —— ——	体部は内湾気味に立ち、口縁部に至る。端部を細く仕上げる。	体部内外面に指頭圧痕。	
41	ＳＫ４	〃	11.5 2.7 —— ——	体部は内湾気味に立ち、口縁部に至る。体部中位が肥厚し、口縁端部を丸くおさめる。	口縁部内外面とも横ナデ調整。体部外面指頭圧痕。	

挿図番号	遺構番号	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　態　・　文　様	手　　法	備　　考
42	ＳＫ７	須恵器 椀	—— (1.3) —— 7.2	高さ４㎜の外傾する高台が付く。	内外面回転ナデ調整。	

挿図番号	遺構番号	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　　態	文　様　・　手　法	備　　考
43	ＳＫ９	青磁 盤	—— (2.2) —— 10.2	小さく低い高台で、やや内傾して下りる。	外底まで施釉する。	
44	ＳＫ11	溝縁皿	—— (3.8) —— 3.0		内外面とも施釉。 見込に砂目あり。	唐津系。
45	ＳＫ12	〃	13.0 3.6 —— 4.0		〃	〃
46	ＳＫ14	碗	—— 3.6 —— 5.0		外底から下胴部にかけて露胎。 見込に砂目。	〃
47	〃	擂鉢	33.8 12.7 —— 12.2	体部は直線的に外上方に立ち上がる。 口縁部に２条の凹線あり。	内外面ともロクロナデ調整。	備前焼。
48	ＳＫ22	瓦質土器 鍋	20.4 (3.3) —— ——	胴部は張り出し、口縁部はほぼ垂直に立つ。	外面に指頭圧痕。	
49	ＳＫ29	青磁 碗	—— (2.7) —— 7.2	高さ1.2㎝の高台で、畳付内外面を削り、丸くおさめている。	高台内側まで施釉する。	
50	ＳＫ36	土師質土器 杯	—— (1.5) —— 5.8		内外面ともロクロナデ調整。	
51	〃	〃	—— (2.7) —— 5.4	体部は直線的に外上方に立つ。	〃	

挿図番号	遺構番号	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　　態	文　様　・　手　法	備　　考
52	ＳＫ39	瓦質土器 鍋	10.6 (4.1) —— ——	胴部からやや内傾して口縁部は垂直に立つ。 口唇部は外傾する凹状をなす。		
53	ＳＫ40	土師質土器 皿	5.5 2.2 —— 4.0	体部は内湾気味に立ち、口縁部に至る。端部を丸くおさめる。	内外面ともロクロナデ調整。	
54	〃	擂鉢	32.4 (7.4) —— ——	体部は直線的に外上方に立つ。端部を上に拡張して丸くおさめる。	条線の単位数は不明。	備前焼。

挿図番号	遺構番号	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　態　・　文　様	手　　法	備　　考
55	ＳＫ42	弥生土器 壺	18.2 11.0 18.0 ——	口頸部は滑らかに外反して、口唇部を丸くおさめ、下半に刻目を配す。やや肩が張る長目の胴部で、上胴部に列点文を配す。		

挿図番号	遺構番号	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　　態	文　様　・　手　法	備　　考
56	ＳＫ49	瓦質土器 鍋	20.2 (5.9) 22.0 ——	胴部はやや張り出し、口縁部は垂直に立つ。	胴部外面に指頭圧痕が残る。	
57	ＳＫ63	〃	18.8 (7.6) 20.0 ——	胴部は張り出し、頸部から垂直に立ち、口縁部はやや外反して端部は丸くおさめる。	内面頸部に横方向のハケ調整。 外面に指頭圧痕。	

挿図番号	遺構番号	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　態　・　文　様	手　　法	備　　考
58	ＳＤ１	弥生土器 甕	22.0 (3.8) —— ——	口縁部は強く外反し、端部を若干外方に拡張している。		
59	〃	〃	—— (9.1) —— 5.8	下胴部は直線的に外上方に立ち上がる。	下胴部内面に指頭圧痕。	
60	〃	弥生土器	—— (2.7) —— 7.3	厚目の底部。		

挿図番号	遺構番号	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　　態	文　様　・　手　法	備　　考
61	ＳＤ１	土師質土器 杯	12.0 3.3 —— 5.4	体部はほぼ直線的に外上方に立ち、口縁部に至る。端部は丸くおさめる。	内外面ともロクロナデ調整。	
62	〃	土師質土器 鍋	21.4 (6.3) —— ——	胴部より内湾して立ち、肩部が断面三角形に突出する。口縁部は内傾し、端部でそり上がり、内傾する面をなす。	口縁部内外面横ナデ調整。 胴部外面斜位の叩目。	

挿図番号	遺構番号	器種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形態	文様・手法	備考
63	SD1	土師質土器 鍋	25.0 (5.4) —— ——	胴部より内湾して立ち、肩部が断面三角形に突出する。口縁部は内傾し、端部でそり上がり、内傾する面をなす。	外面上胴部から口縁部、内面口縁部横ナデ調整。内面胴部ナデ調整。胴部外面叩目。	
64	〃	〃	20.7 (4.8) —— ——	〃	口縁部内外面横ナデ調整。 胴部外面叩目。 内面ナデ調整。	
65	〃	〃	24.8 (5.5) —— ——	胴部から内傾して立ち、肩部が突出する。口縁端部は肥厚し、水平な面をなす。	外面上胴部、口縁部内外面横ナデ調整。胴部内面ナデ調整。外面胴部叩目。	
66	〃	〃	19.2 (6.6) —— ——	胴部から口縁部にかけて内湾して立ち、肩部が突出する。口縁端部は内傾して丸くおさめる。	口縁部内外面とも横ナデ調整。上胴部内面、横方向のハケ調整。	外面胴部煤状炭化物付着。
67	〃	〃	28.8 (9.2) 32.2 ——	体部は内湾気味に立ち、口縁部は肥厚する。端部は横ナデによって凹状をなす。	内外面とも指頭圧痕。	
68	〃	土師質土器 釜	28.8 (6.2) —— ——	体部は内湾気味に立つ。幅約1cmの鍔が真横に向けて延び、口縁部は破損している。	内外面とも横方向のハケ調整。鍔は横ナデ調整。	
69	〃	〃	13.8 (5.2) —— ——	胴部は強く張り出し、口頸部から垂直に立つ。口縁端部を外方に若干拡張し、口唇部は水平な面をなす。	内外面とも横ナデ調整。	
70	〃	〃	17.8 (5.9) —— ——	胴部が張り出し、口縁部はゆるやかに内傾して立つ。口唇部は丸くおさめる。	頸部内面強いナデ調整。 胴部外面横方向のハケ調整。	
71	〃	瓦質土器 擂鉢	27.2 (6.2) —— ——	体部は直線的に外上方に立ち、端部は外傾する面をなす。	条線は単位数不明。 外面指頭圧痕。	
72	〃	瓦質土器 鍋	20.8 (4.7) —— ——	胴部は若干張り出し、口縁部は垂直に立つ。口唇部は外傾する面をなす。	胴部外面指頭圧痕。	
73	〃	擂鉢	24.8 (6.4) —— ——	体部は直線的に外上方へ立つ。端部を上下に拡張し先端部は尖る。	内外面ともロクロナデ調整。 条線は単位数不明。	備前系。
74	〃	〃	31.2 (5.6) —— ——	体部は直線的に外上方に立つ。口縁部を上下に拡張し、上端部を丸くおさめる。	内外面ともロクロナデ調整。	〃
75	〃	壺	11.2 (3.6) —— ——	頸部から垂直に立ち、口縁部は小玉縁である。	〃	〃
76	〃	青磁 碗	—— (2.4) —— 5.4	高さ1.3cmの高台。 畳付外面を削り、丸くおさめる。	内面から高台内側まで施釉する。	
77	〃	〃	—— (3.3) —— 4.7	高さ7mmの高台で、やや内傾して下りる。高台内面を浅く削り、体部は内湾して外上方に立つ。	外底まで施釉し、高台は部分的に釉がかかる。 外面鎬蓮弁文。	

挿図番号	遺構番号	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　　態	文様・手法	備　考
78	ＳＤ１	白磁 皿	—— (1.9) —— 4.4	高台アーチ状を呈す。	内面施釉。貫入あり。 外面露胎。	
79	〃	〃	12.0 (1.9) —— ——	体部は内湾気味に立ち、口縁部は外反する。		
80	〃	皿	13.5 3.9 —— 4.2	小さく低い高台で削り出しも浅い。体部はやや内湾して外上方に立つ。口縁部は外反し、端部を丸くおさめる。	体部中位まで施釉し、貫入有り。 見込に胎土目有り。	唐津系。
81	〃	土錘	全　長 (3.7) 直　径 0.9 重量(g) 2.7	円筒形を呈す。		土師質。
82	ＳＤ８	土師質土器 杯	12.5 4.2 —— 6.0	体部は直線的に外上方に立ち、口縁部に至る。端部は細く仕上げる。	底部は回転糸切り。 内外面ともロクロナデ調整。	
83	〃	瓦質土器 鍋	15.4 (5.5) —— ——	体部は内湾して立ち、口縁部は若干内傾する。端部は内傾する面をなす。	体部外面指頭圧痕。	
84	ＳＥ１	土師質土器 鍋	15.2 (7.0) —— ——	胴部は張り出さず、口縁部は垂直に立ち、肩部が突出する。口唇部を丸くおさめる。	口縁部内外面とも横ナデ調整。 胴部外面指頭圧痕。	
85	〃	擂鉢	33.0 (9.5) —— ——	体部は直線的に外上方へ立ち上がり、そのまま口縁部に至る。端部は面をなす。	７条１単位の条線を有す。	備前焼。
86	〃	〃	—— (3.8) —— 15.0	体部は直線的に外上方へ立つ。	内外面ともロクロナデ調整。 条線は単位数不明。	〃
87	〃	青磁 碗	—— (2.5) —— 5.6	高さ１㎝の高台で、やや外反して下りる。畳付外面を削る。	高台外側まで施釉。	
88	〃	白磁 杯	—— (2.1) —— 3.2	高さ６㎜の高台。体部下位で屈曲して立つ。 畳付外面を削り狭くする。	〃	
89	Ｐ１	皿	12.8 3.5 —— 4.2	高さ６㎜の高台で垂直に下りる。体部はほぼ直線的に外上方へ延び、口縁部はやや内湾して終わる。	見込に砂目有り。 体部外面中位まで釉を施す。	唐津系。
90	Ｐ２	土師質土器 皿	13.9 (2.7) —— ——	体部は内湾気味に立ち、口縁部は外反する。端部を細く仕上げる。	内外面指頭圧痕。	
91	〃	〃	11.2 2.9 —— ——	体部は内湾気味に立ち、口縁部でやや外反する。端部は丸くおさめる。	口縁部内外面とも横ナデ調整。 体部内外面とも指頭圧痕。	
92	Ｐ３	瓦器 椀	12.6 5.0 —— ——	体部は内湾気味に立ち、口縁部に至る。端部を丸くおさめる。	体部外面指頭圧痕。	

挿図番号	遺構番号	器　種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	形　　態	文　様　・　手　法	備　　考
93	P 4	土師質土器 小皿	6.1 1.4 —— ——	体部は内湾気味に立ち、口縁部に至る。端部は丸くおさめる。		
94	P 5	青磁 碗	—— (3.4) —— 5.0	畳付外面を削り取る。	見込に印花文有り。 高台内面内側まで施釉し、内外面貫入有り。	
95	P 6	〃	—— (1.6) —— 6.6		見込の釉を円形に掻き取る。 畳付まで施釉する。	
96	P 7	土錘	全　長　4.4 直　径　1.8 重量(g)　3.7	紡錘形を呈す。		土師質。
97	P 8	壺	13.2 (8.0) —— ——	頸部より垂直に立ち、口縁部小玉縁を呈す。肩部は強く張り出す。	内外面ともロクロナデ調整。	備前焼。
98	P 9	土師質土器 杯	—— (2.1) —— 7.2	体部は直線的に外上方に立つ。	〃	
99	P10	青磁 碗	15.6 (5.6) —— ——	体部は内湾気味に立ち、口縁部は外反する。端部を丸くおさめる。	内外面貫入有り。	
100	P11	土師質土器 皿	16.4 (4.2) —— ——	体部は内湾して立ち、中位で屈曲し肥厚する。口縁端部は外反し丸くおさめる。口縁部内面に稜を形成する。	口縁部内外面とも横ナデ調整。 体部内外面とも指頭圧痕。	
101	P13	青磁 杯	11.0 (2.0) —— ——	体部は内湾気味に立ち、口縁部は外反する。端部を丸くおさめる。		
102	P15	土師質土器 鍋	15.2 (6.7) —— ——	体部から内傾して立ち、肩部が突出する。口縁端部を丸くおさめる。	口縁部内外面とも横ナデ調整。	

第59表　遺構出土石器観察表

挿図番号	遺構番号	器　種	計測値(cm, g) 最大長 最大幅 最大厚 重　量	材　　質	特　　徴	備　　考
103	ＳＥ１	石斧	7.5 3.5 1.9 89.5	緑泥片岩	表面に若干の研磨痕のある扁平片刃石斧であり、刃部は刃こぼれが著しい。	
104	〃	不明	(13.5) 3.4 3.3 122.5	蛇紋岩	磨製石斧の欠損品か。表面はよく研磨されている。	

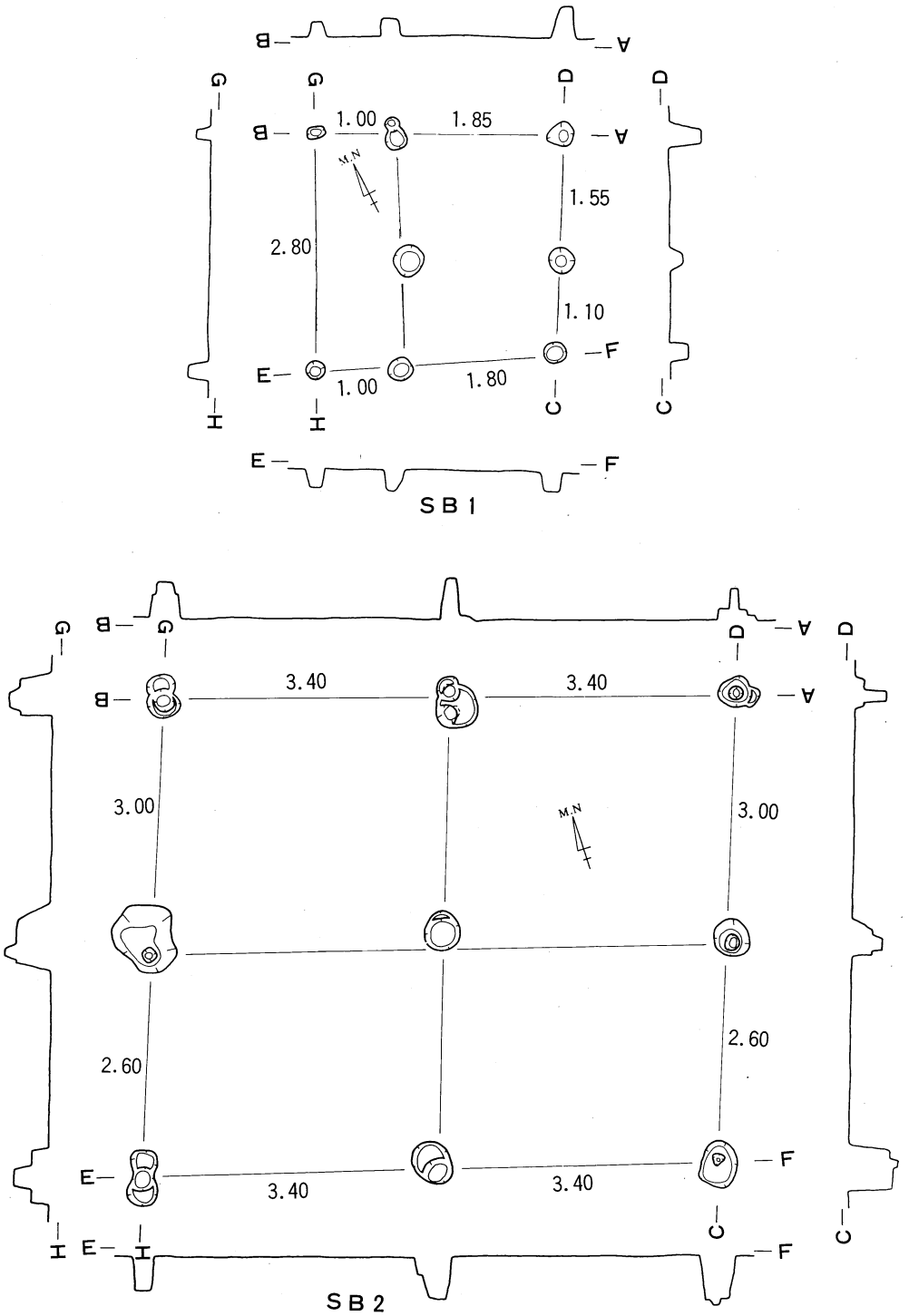
挿図番号	遺構番号	器　種	計測値(cm, g) 最大長 最大幅 最大厚 重　量	材　　質	特　　徴	備　考
105	ＳＤ１	砥石	7.1 5.1 3.5 175.0	砂　岩	３面を使用している。	
106	ＳＫ59	〃	5.9 3.5 3.2 124.0	〃	４面とも使用している。	
107	ＳＤ１	〃	7.7 6.5 6.1 477.5	頁　岩	〃	
108	ＳＫ14	石臼	20.8 —— 5.4 4800.0	砂　岩	７条１単位の擂目を有す。	

第60表　遺構出土木器観察表

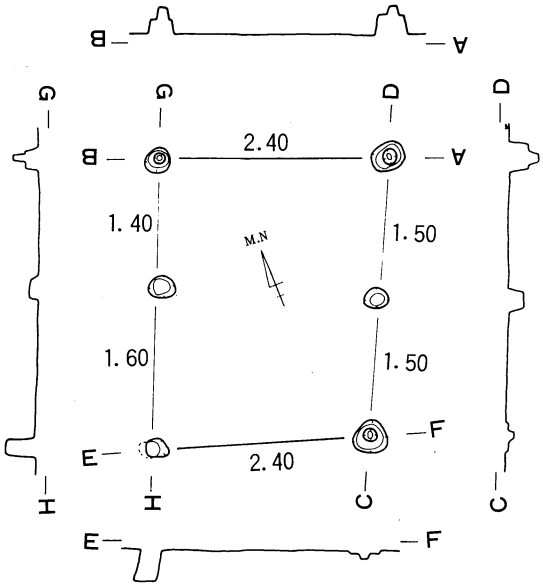
挿図番号	遺構番号	器　種	計測値(cm) 最大長 最大幅 最大厚	材　　質	特　　徴	備　考
109	ＳＥ１	火鑽板	33.8 3.2 3.0	不　明	１側面に切り欠ぎを付けた火鑽板。	
110	〃	井筒	27.2 26.0 5.6	〃	自然木をくり抜いて作製している。	

第61表　遺構出土金属器観察表

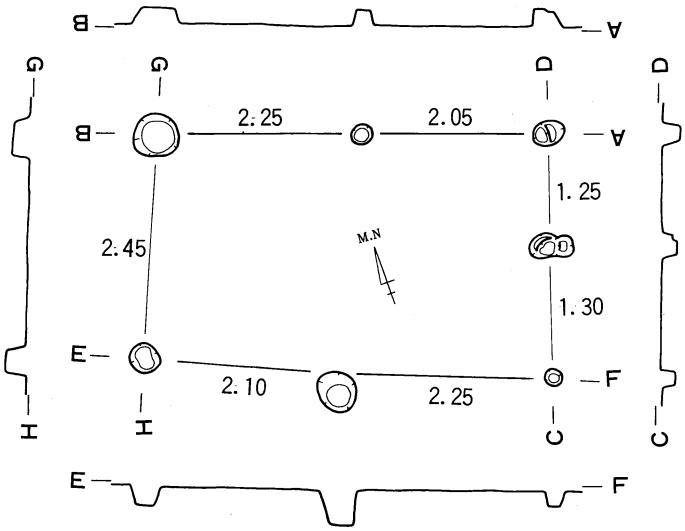
挿図番号	遺構番号	器　種	計測値(cm, g) 最大長 最大幅 最大厚 重　量	材　　質	特　　徴	備　考
111	ＳＤ１	釘	7.4 1.2 1.1	鉄	断面は不整円形を呈す。	
112	Ｐ12	〃	5.6 1.2 0.7	〃	〃	
113	Ｐ14	〃	3.9 1.3 0.5	〃	上方に向けて徐々に肥厚している。 断面長方形を呈す。	
114	ＳＤ３	〃	4.4 1.5 1.1	〃	やや弧状に曲がっている。	


SB1
1.00
1.85
1.55
2.80
1.10
1.00
1.80
M.N
SB2
3.40
3.40
3.00
3.00
2.60
2.60
3.40
3.40
M.N
DL=7.50m
0
4m

第235図　SB1・2

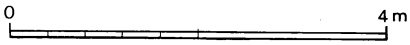


SB3

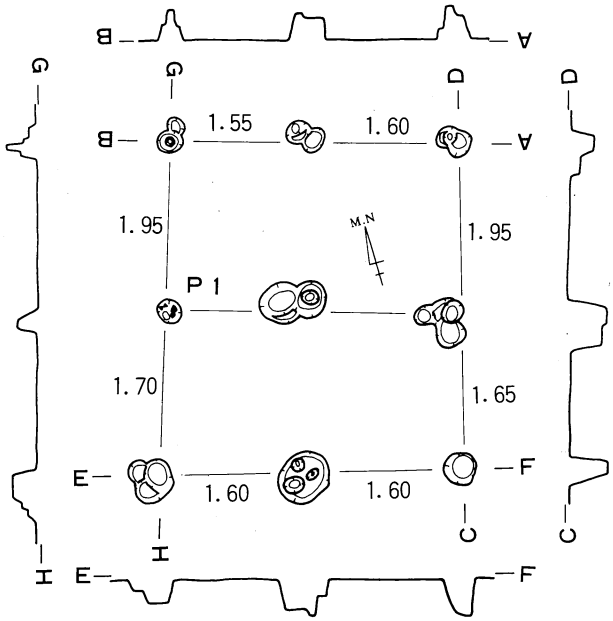


SB4

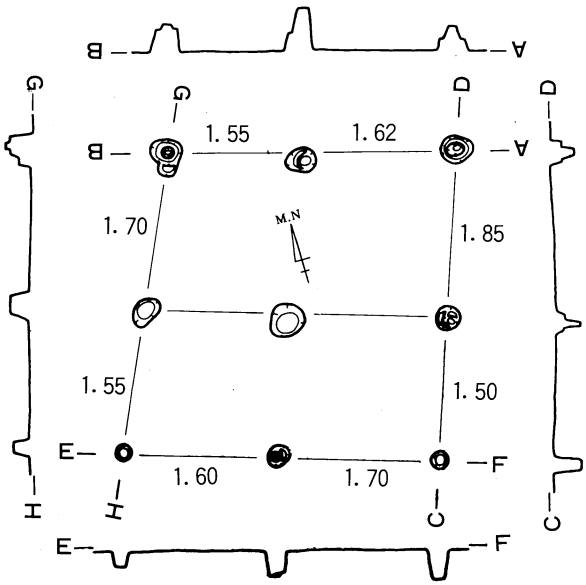
DL=7.50m



第236図　SB3・4

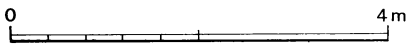


SB 5

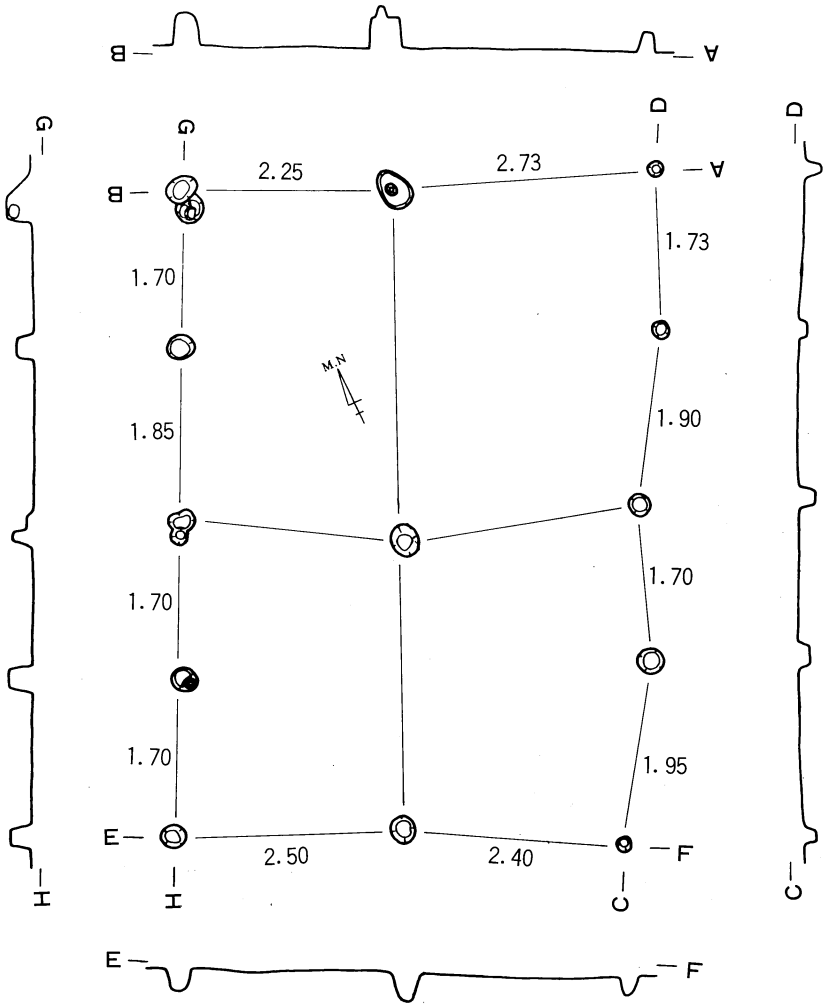


SB 6

DL=7.50m



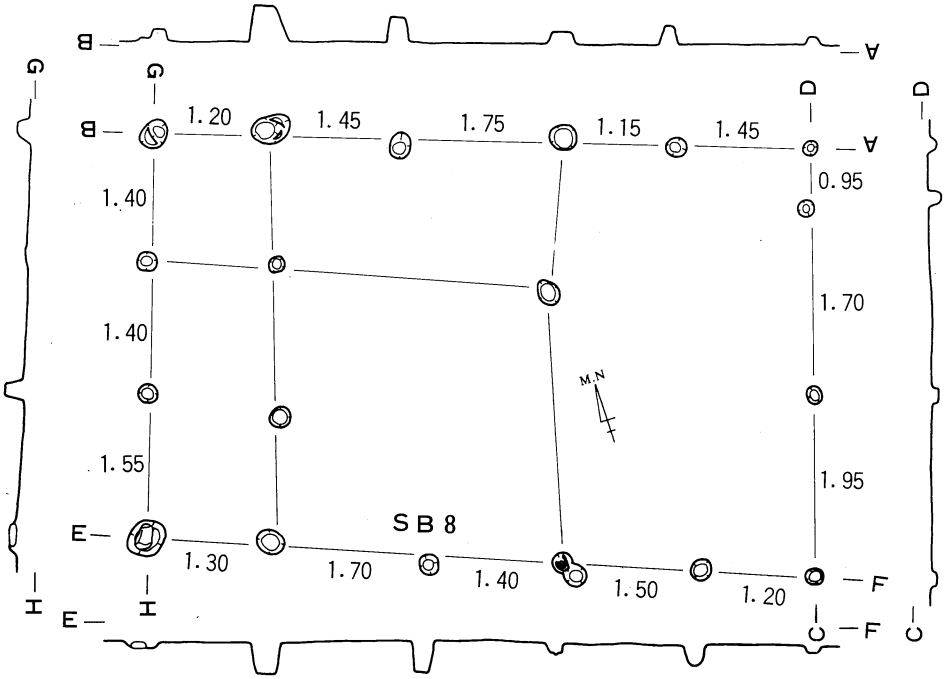
第237図　SB 5・6

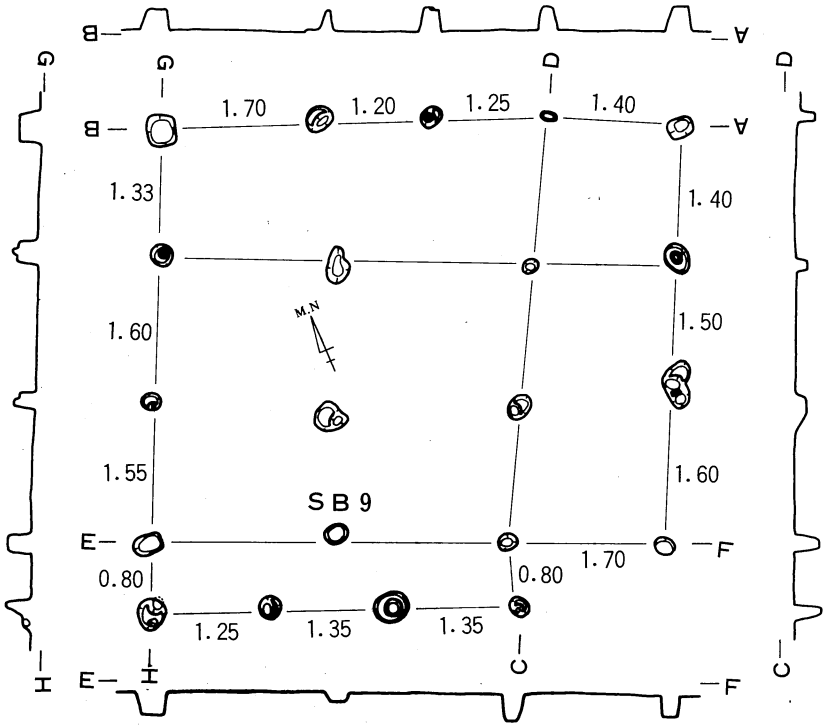


SB7

DL=7.50m　0　4m

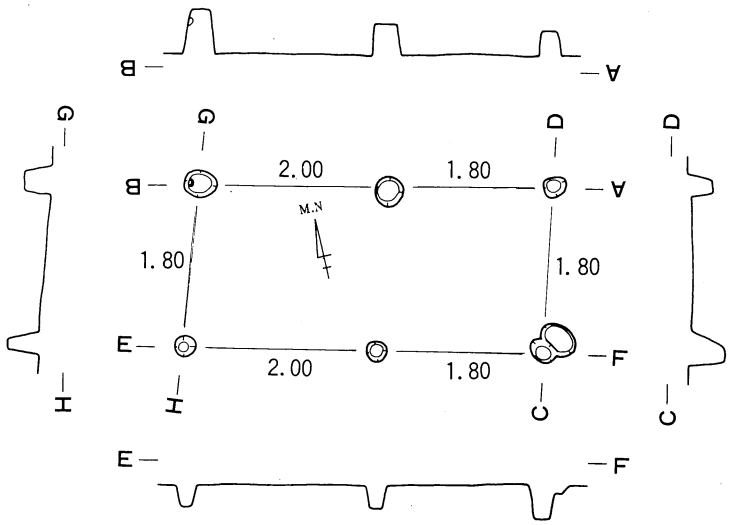
第238図　SB7



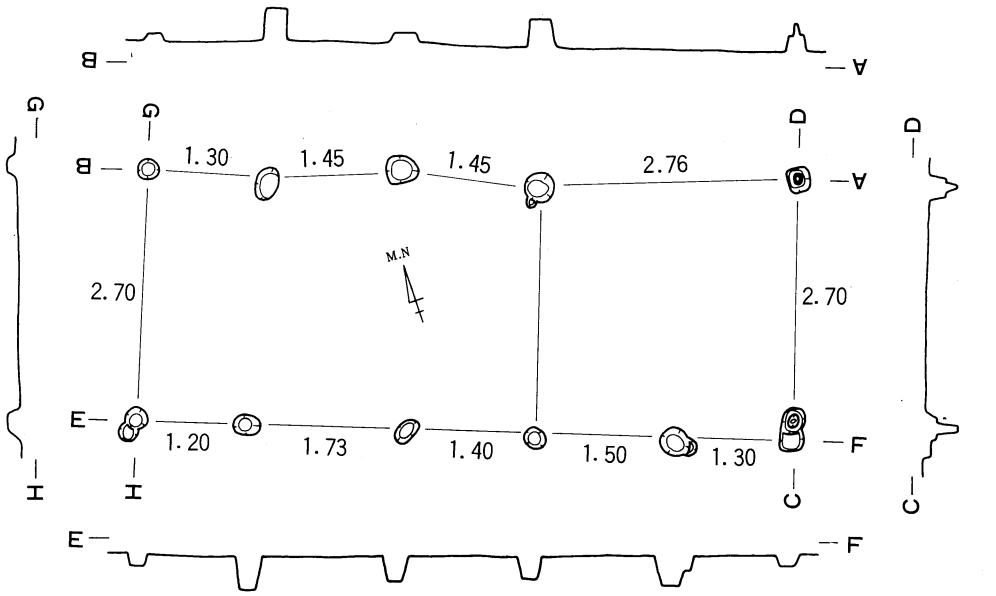


DL=7.50m　0　4m

第239図　SB 8・9



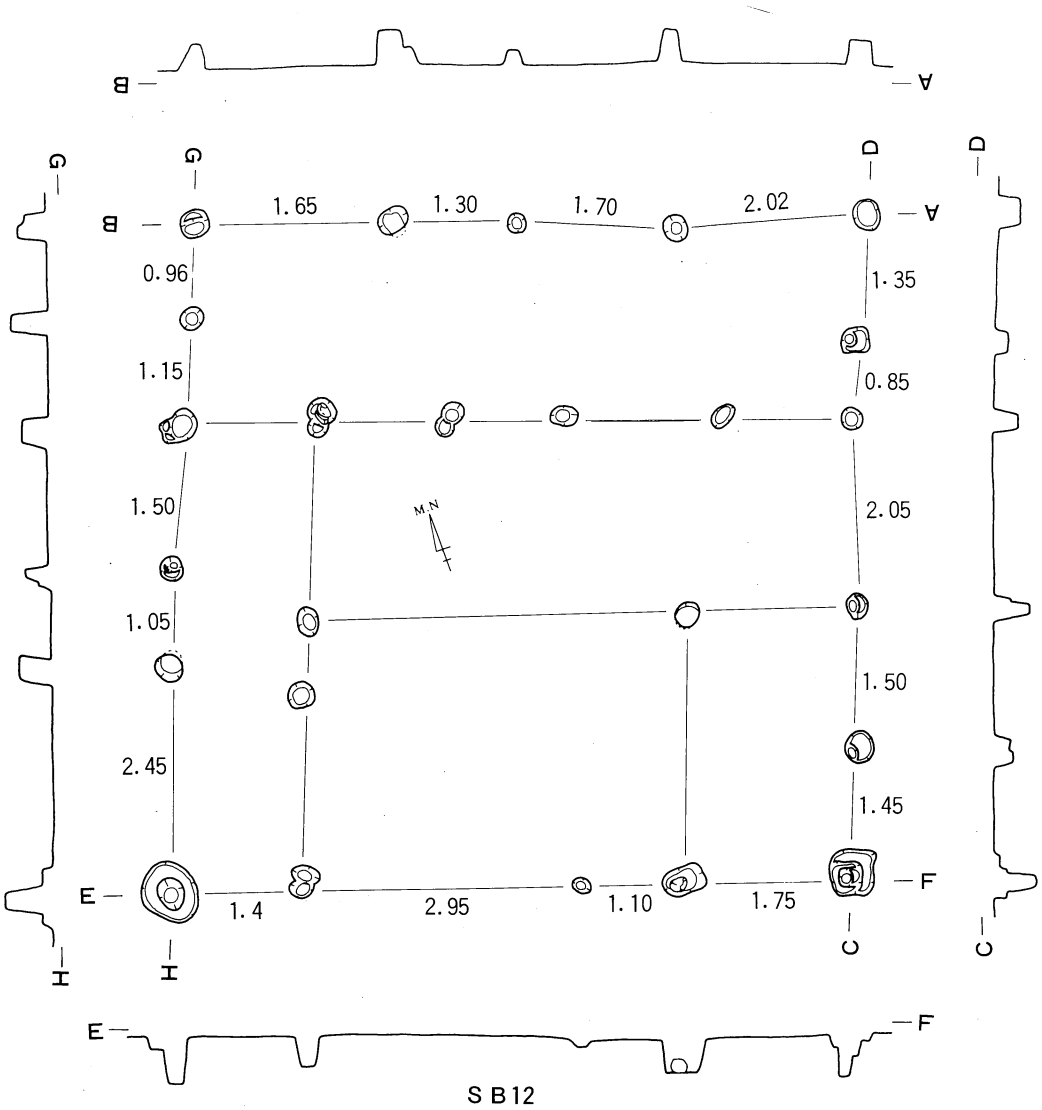
SB10



SB11

DL=7.50m

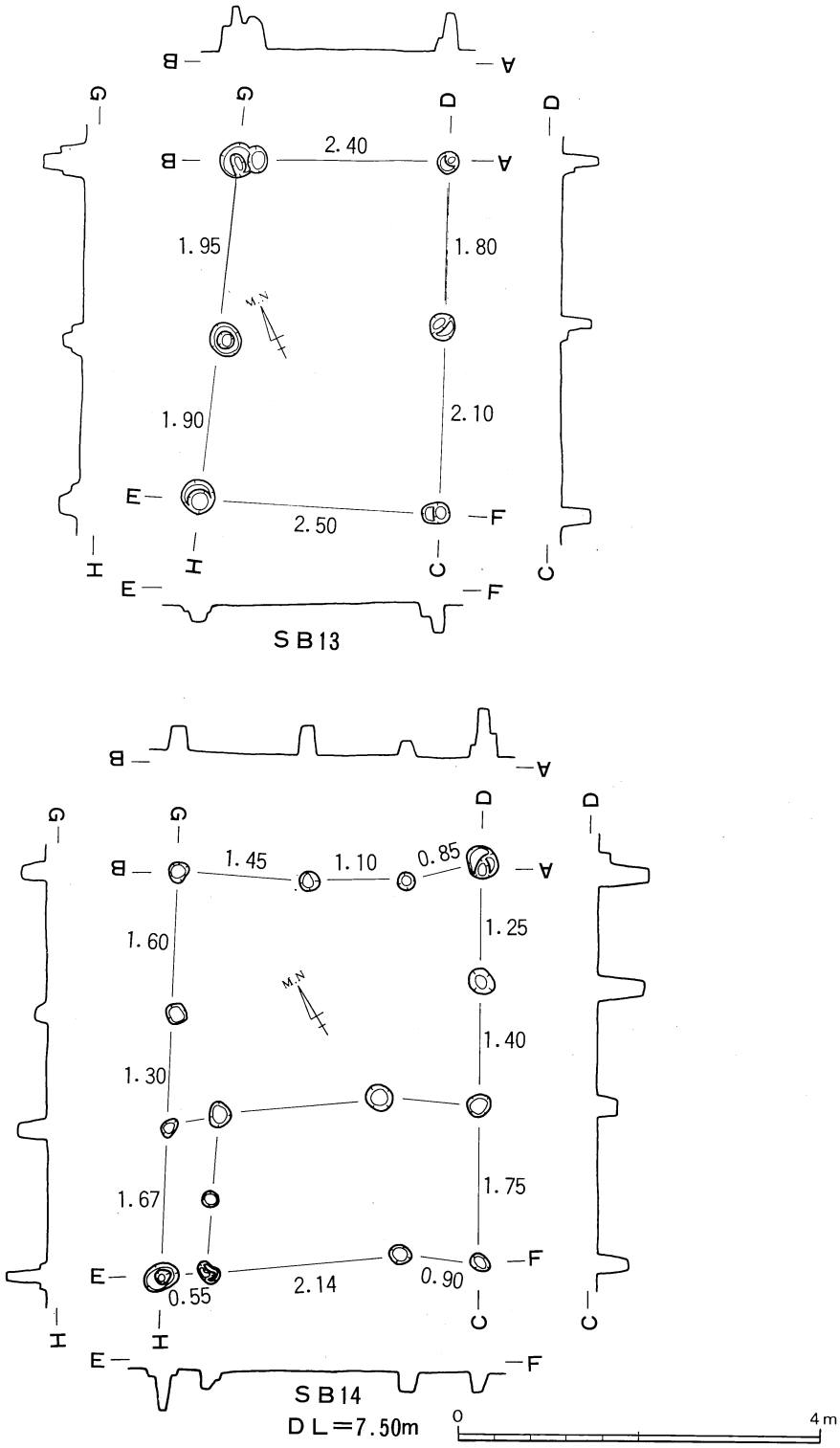
第240図　SB10・11



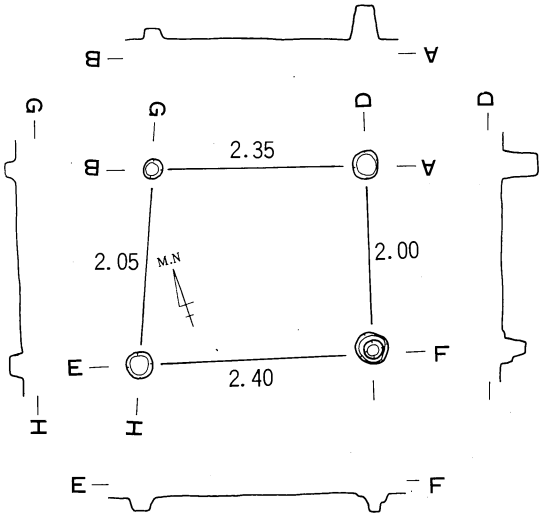
DL＝7.50m

0 4m

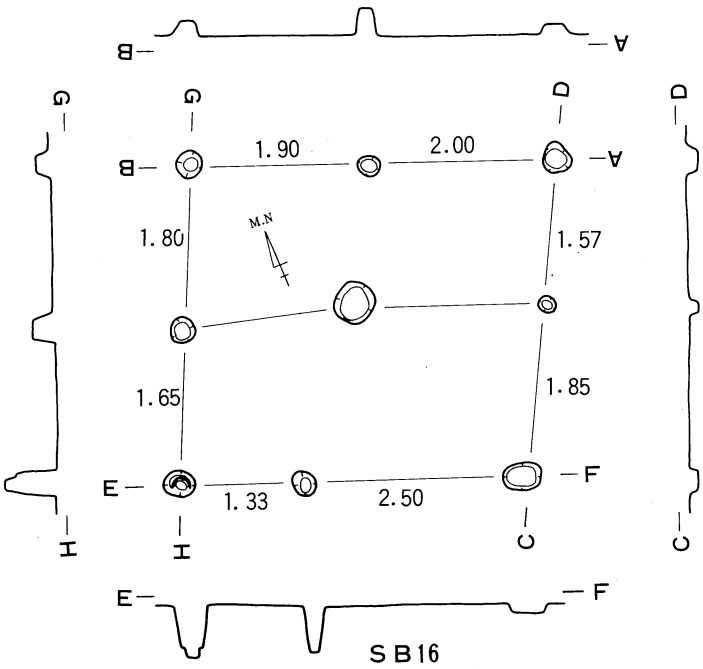
第241図　SB12



第242図　SB13・14

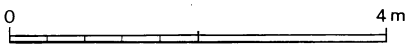


SB15

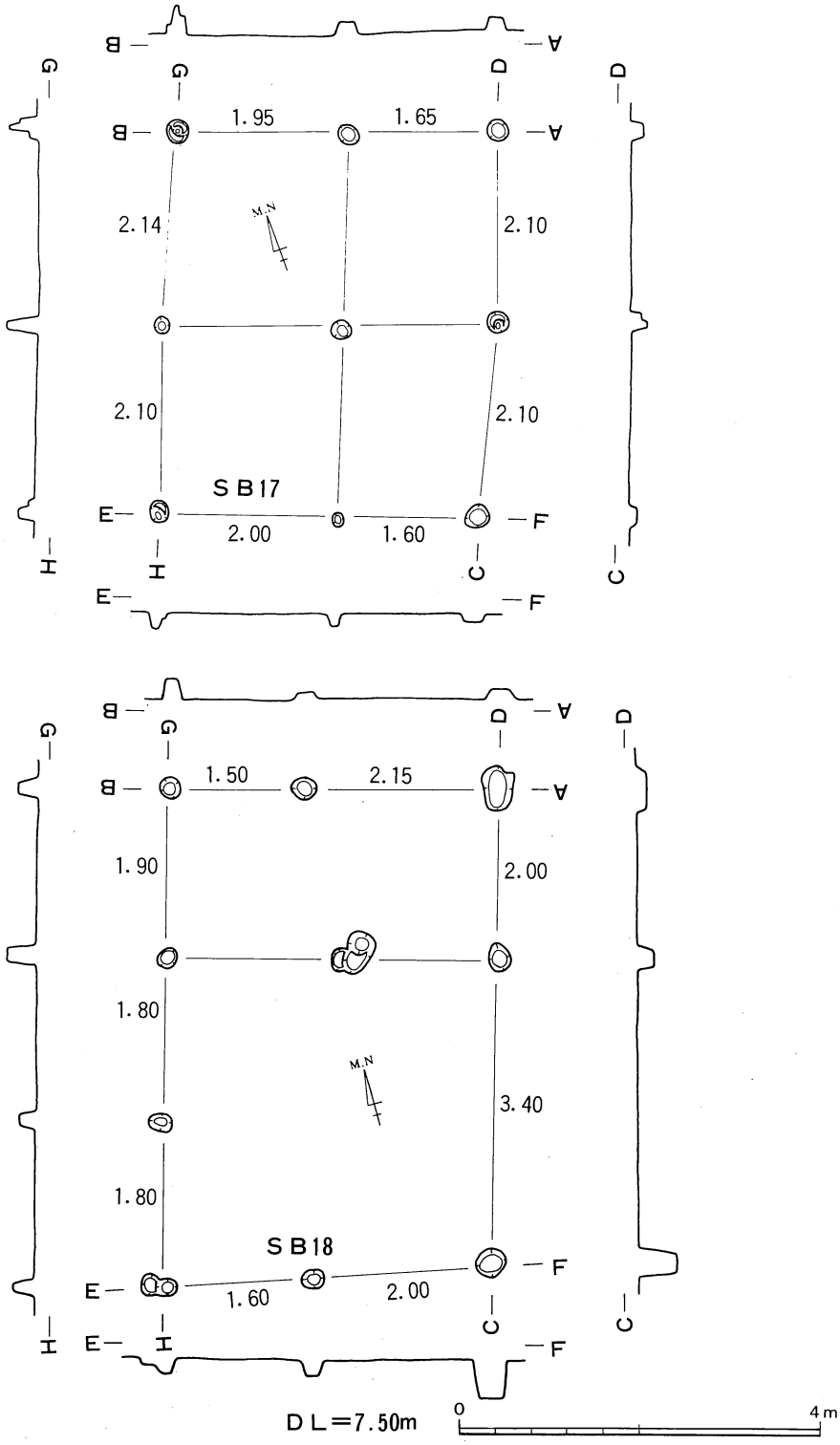


SB16

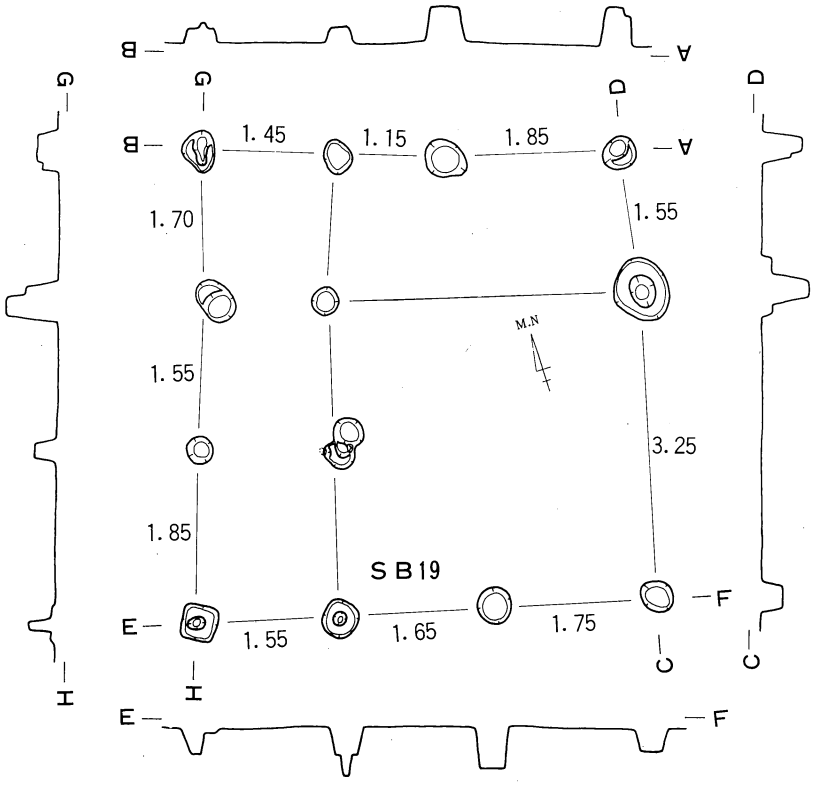
DL=7.50m

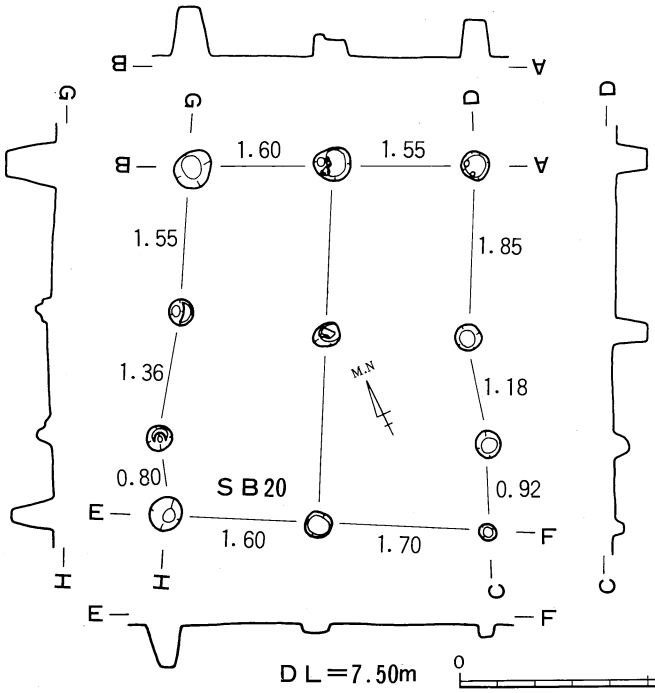


第243図　SB15・16



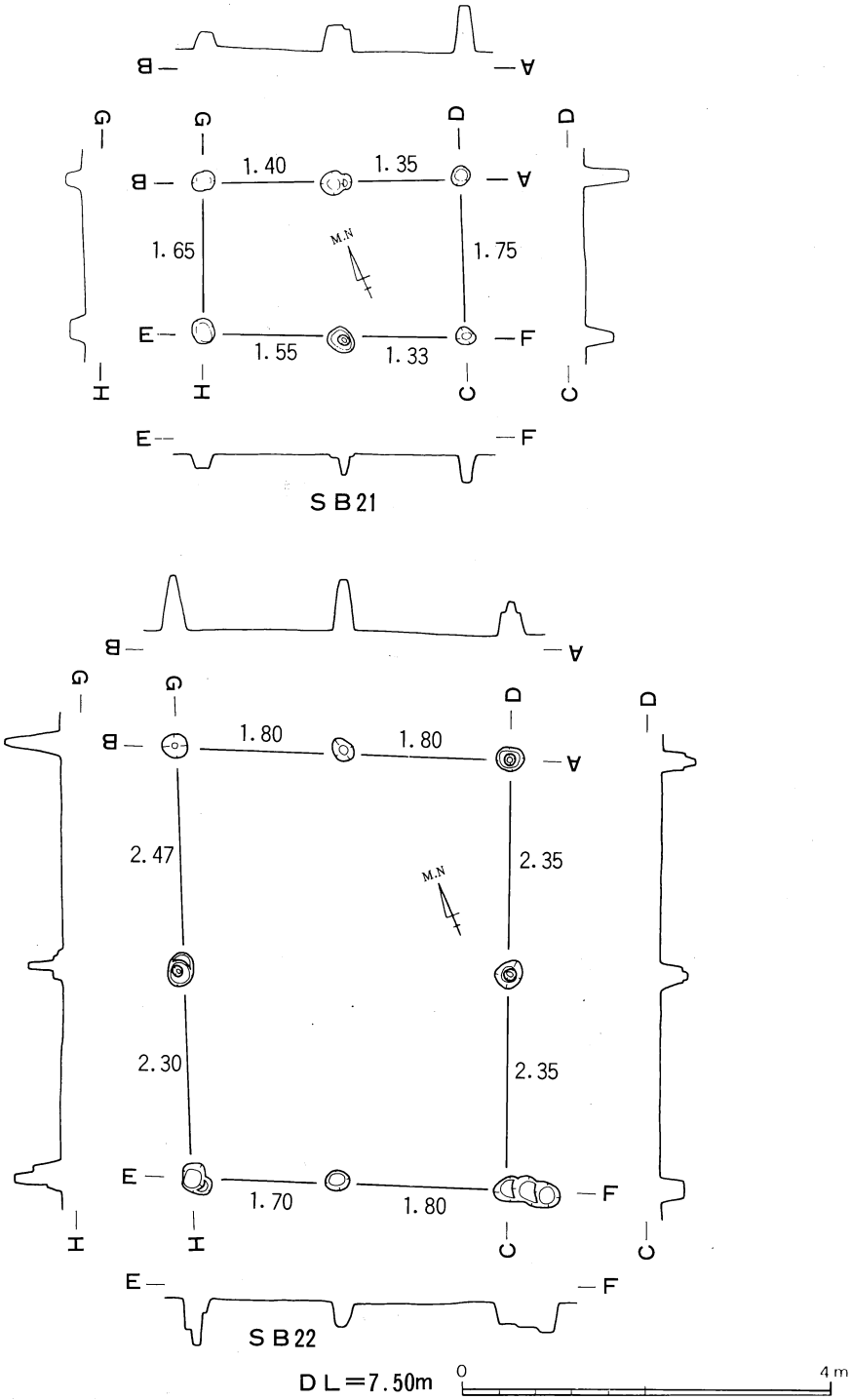
第244図　SB17・18



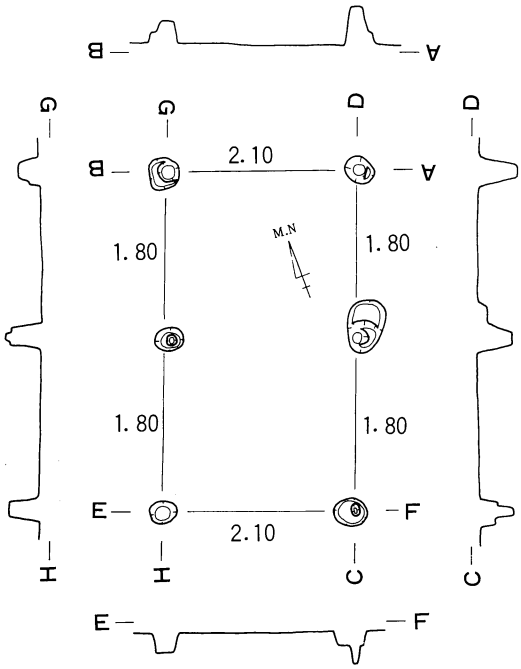


DL＝7.50m　0　4m

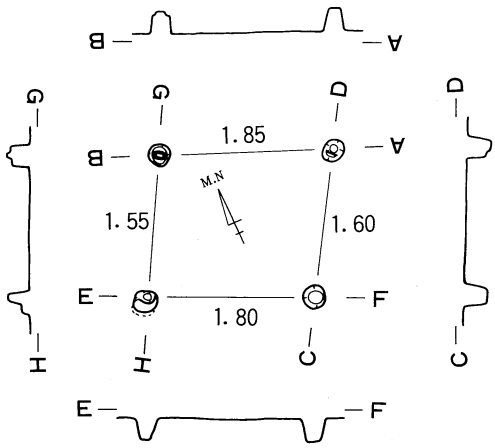
第245図　SB19・20



第246図　ＳＢ21・22



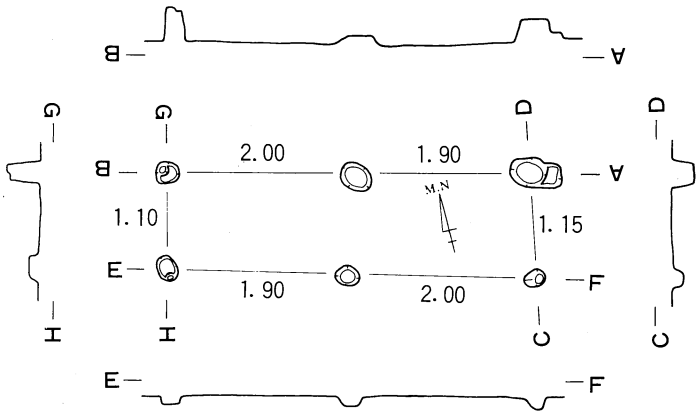
SB23



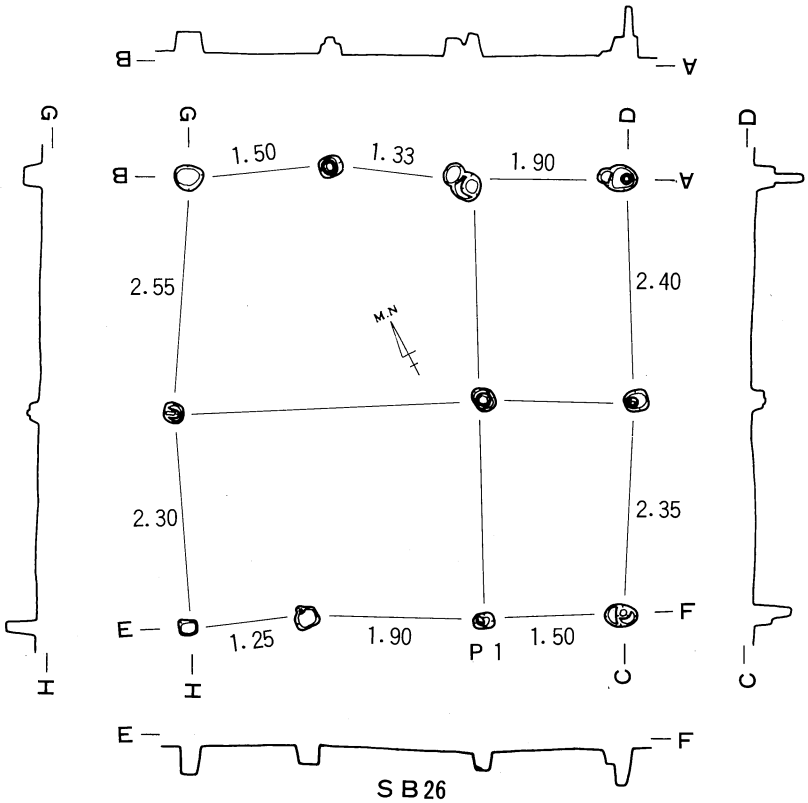
SB24

DL＝7.50m

第247図　SB23・24

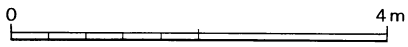


SB25

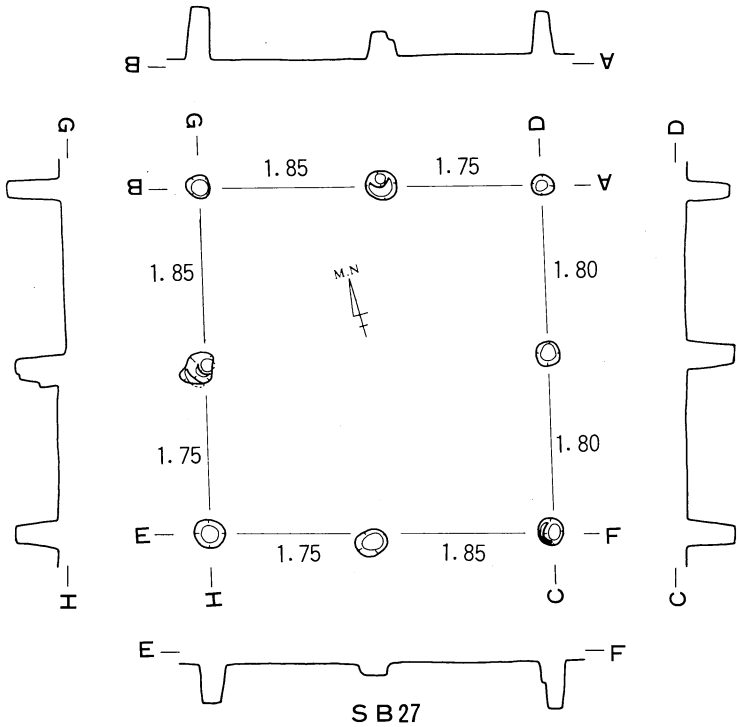


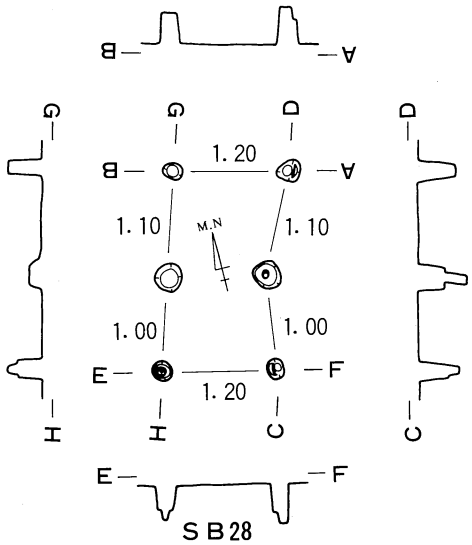
SB26

DL＝7.50m

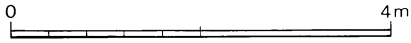


第248図　SB25・26

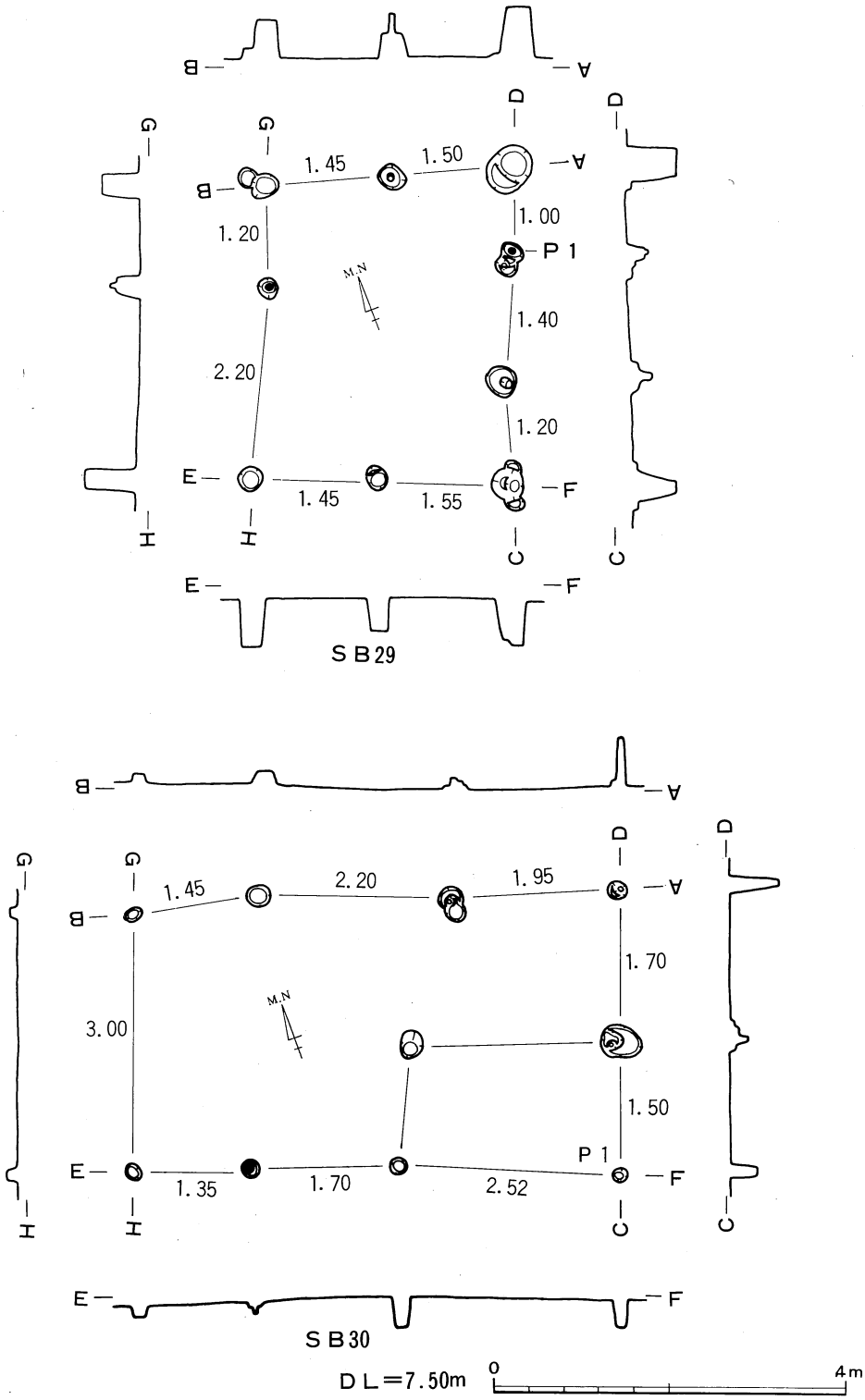




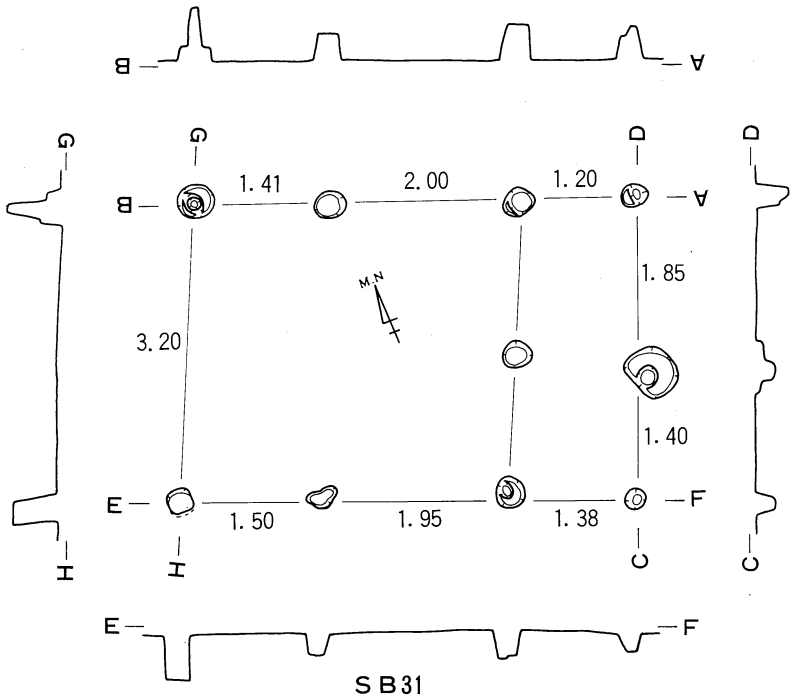
DL=7.50m

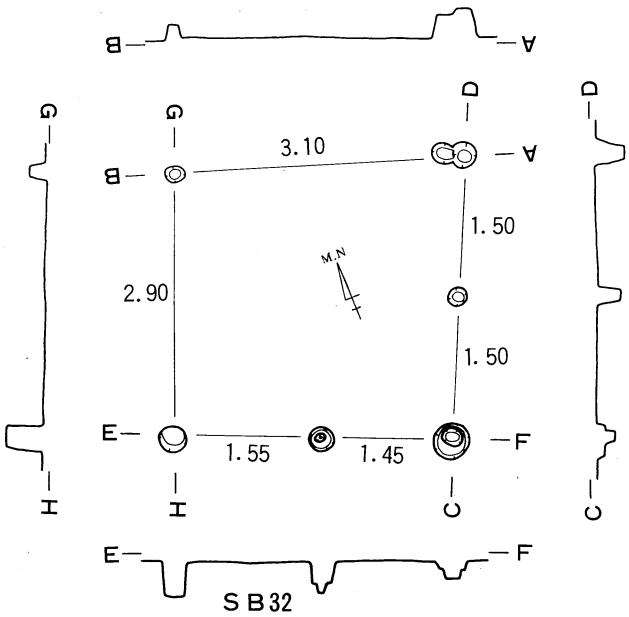


第249図　SB27・28



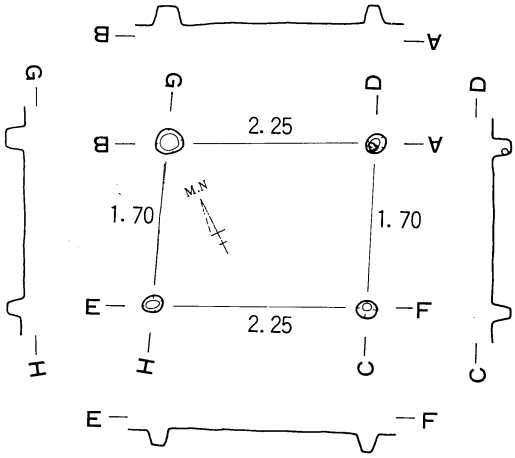
第250図　SB29・30



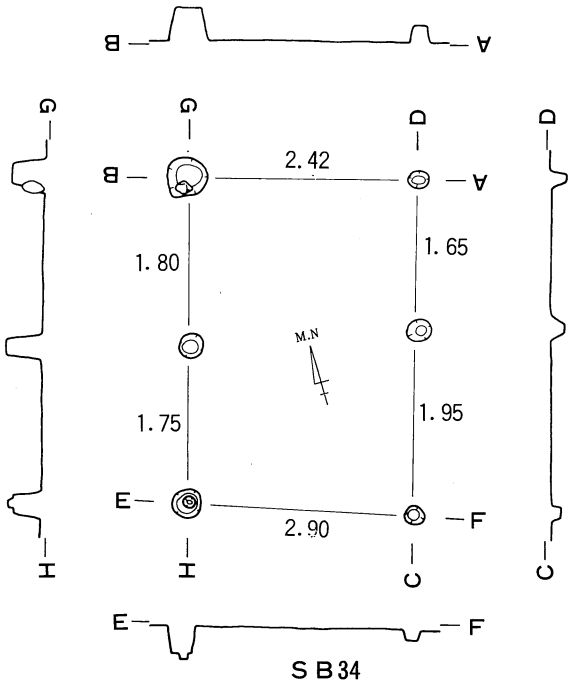


DL=7.50m 0 4m

第251図　SB31・32



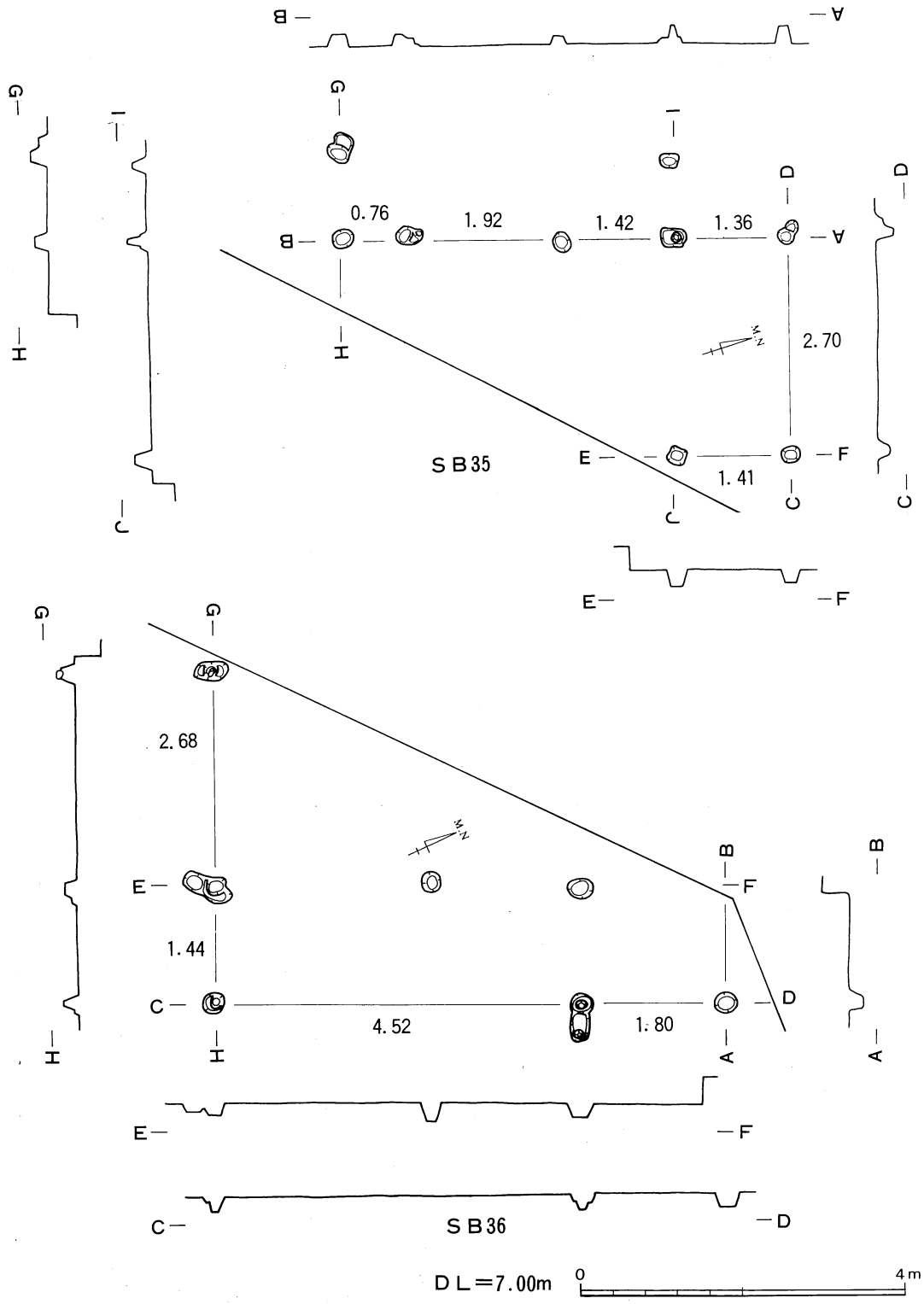
SB33



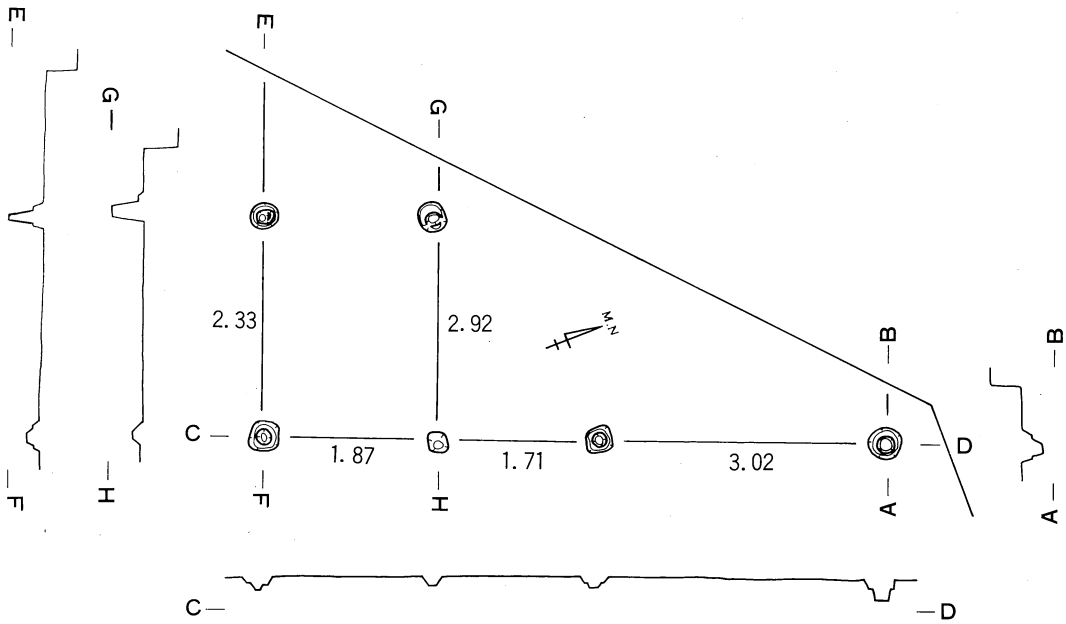
SB34

DL=7.50m 0 4m

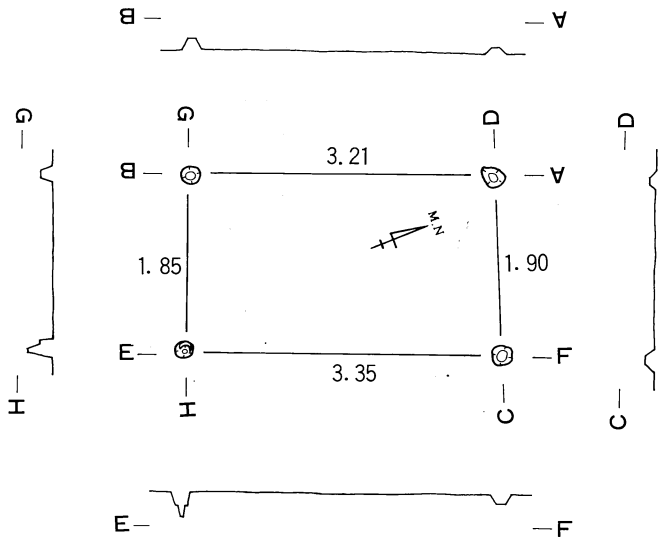
第252図　SB33・34



第253図　ＳＢ35・36



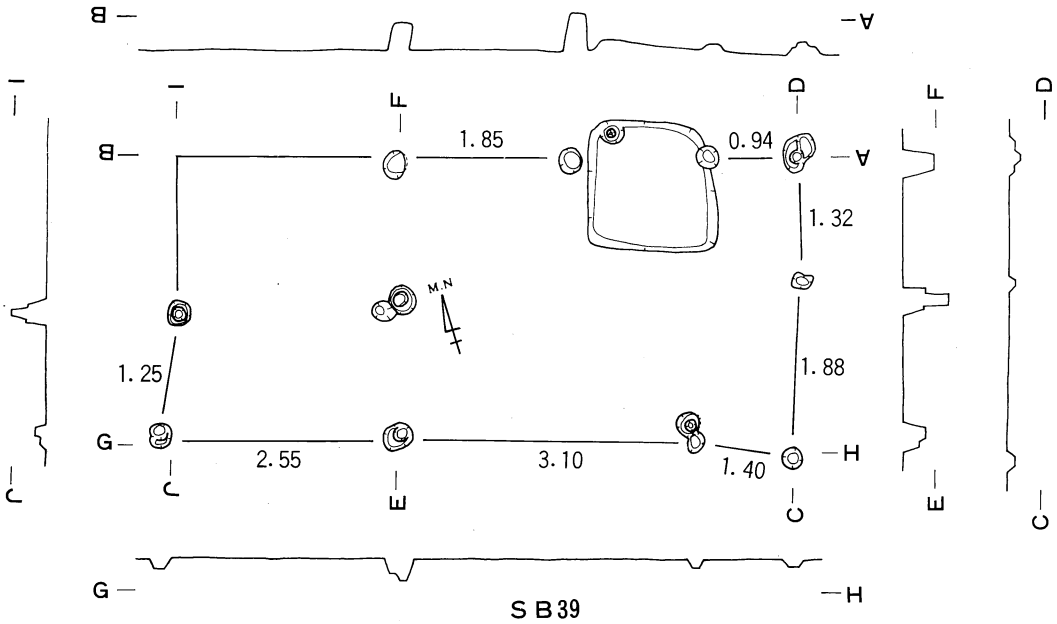
SB37

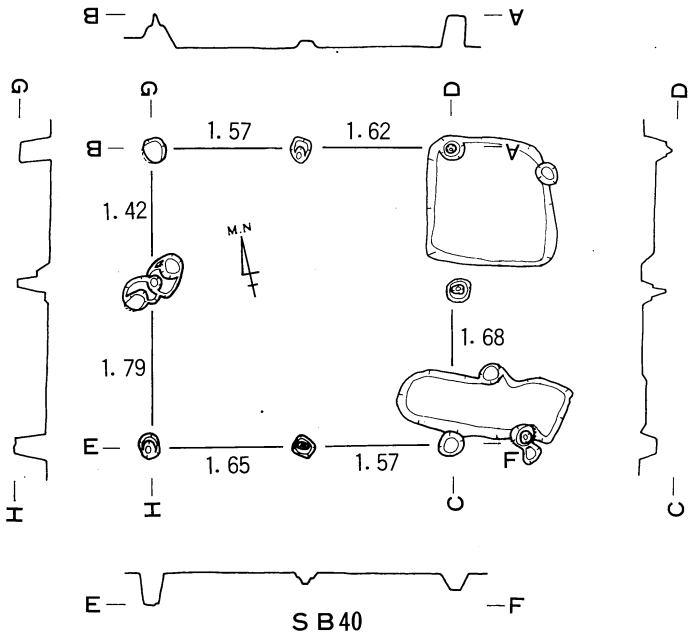


SB38

DL＝7.00m

第254図　SB37・38

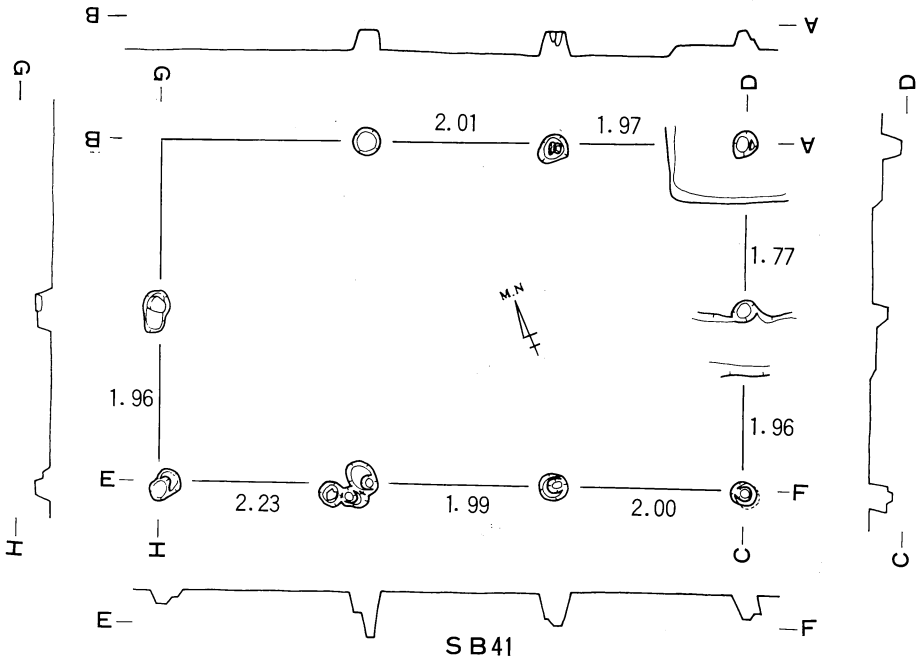




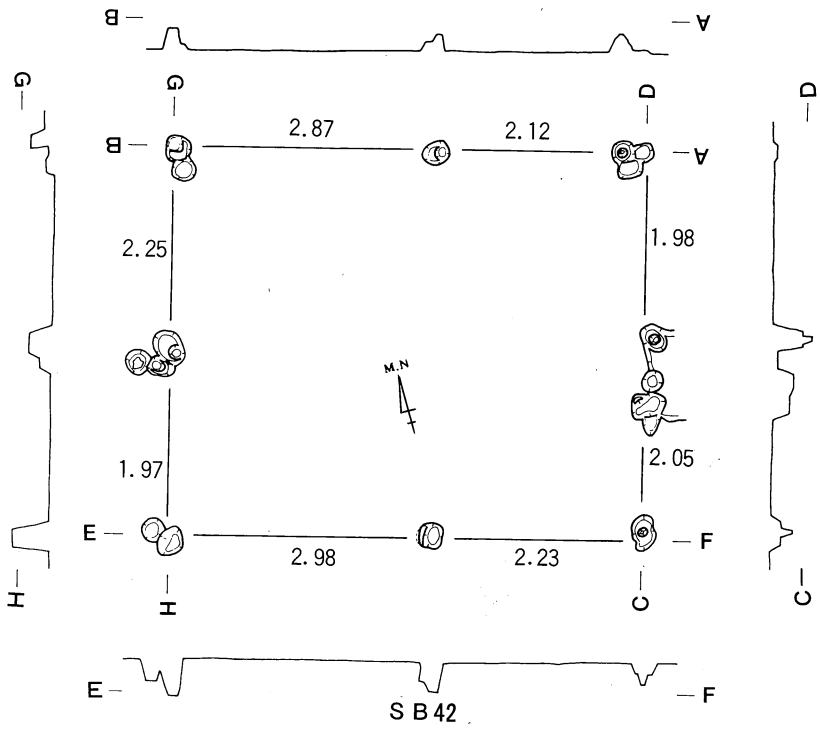
DL=7.00m

0 4m

第255図　SB39・40



SB41

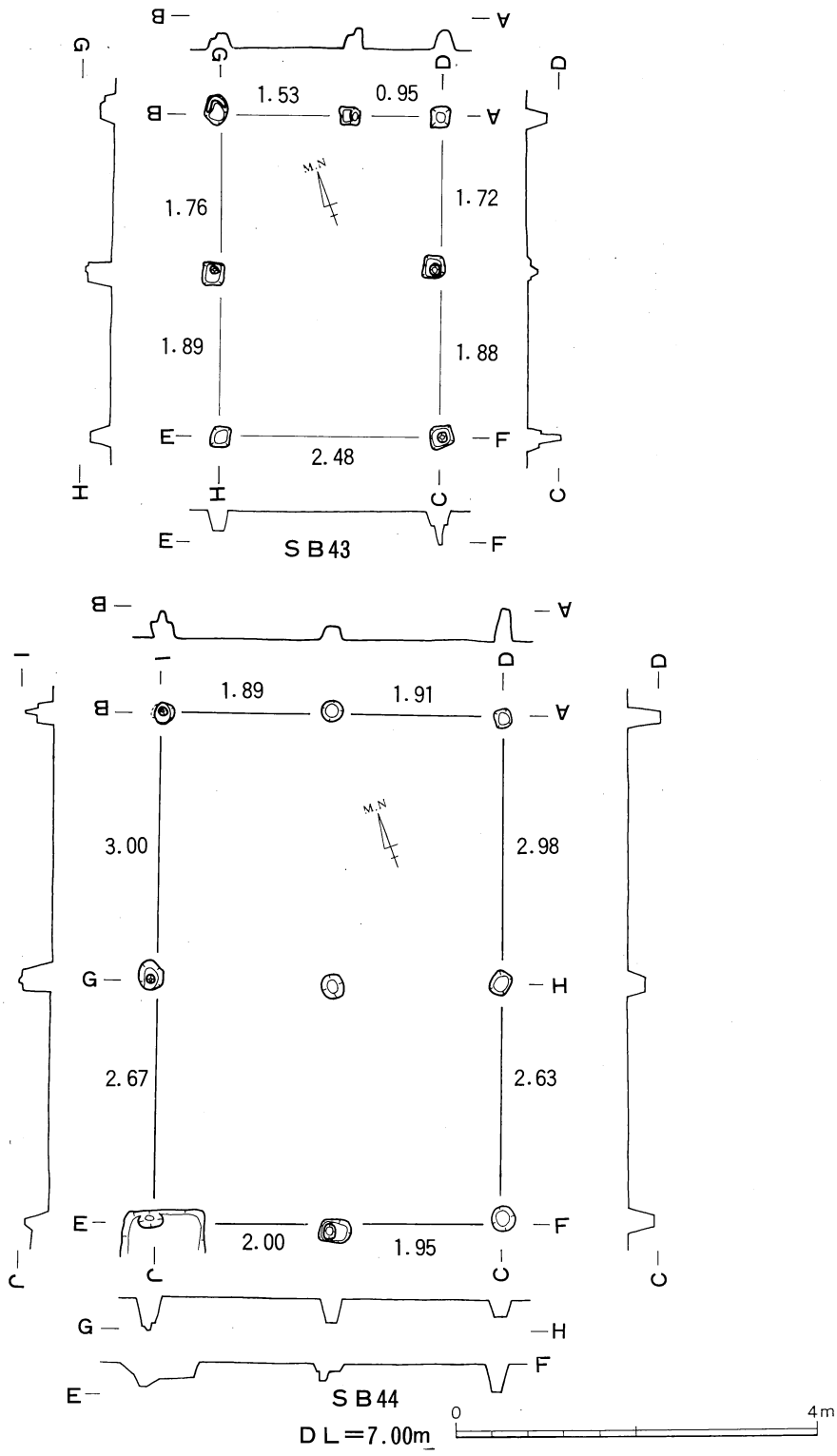


SB42

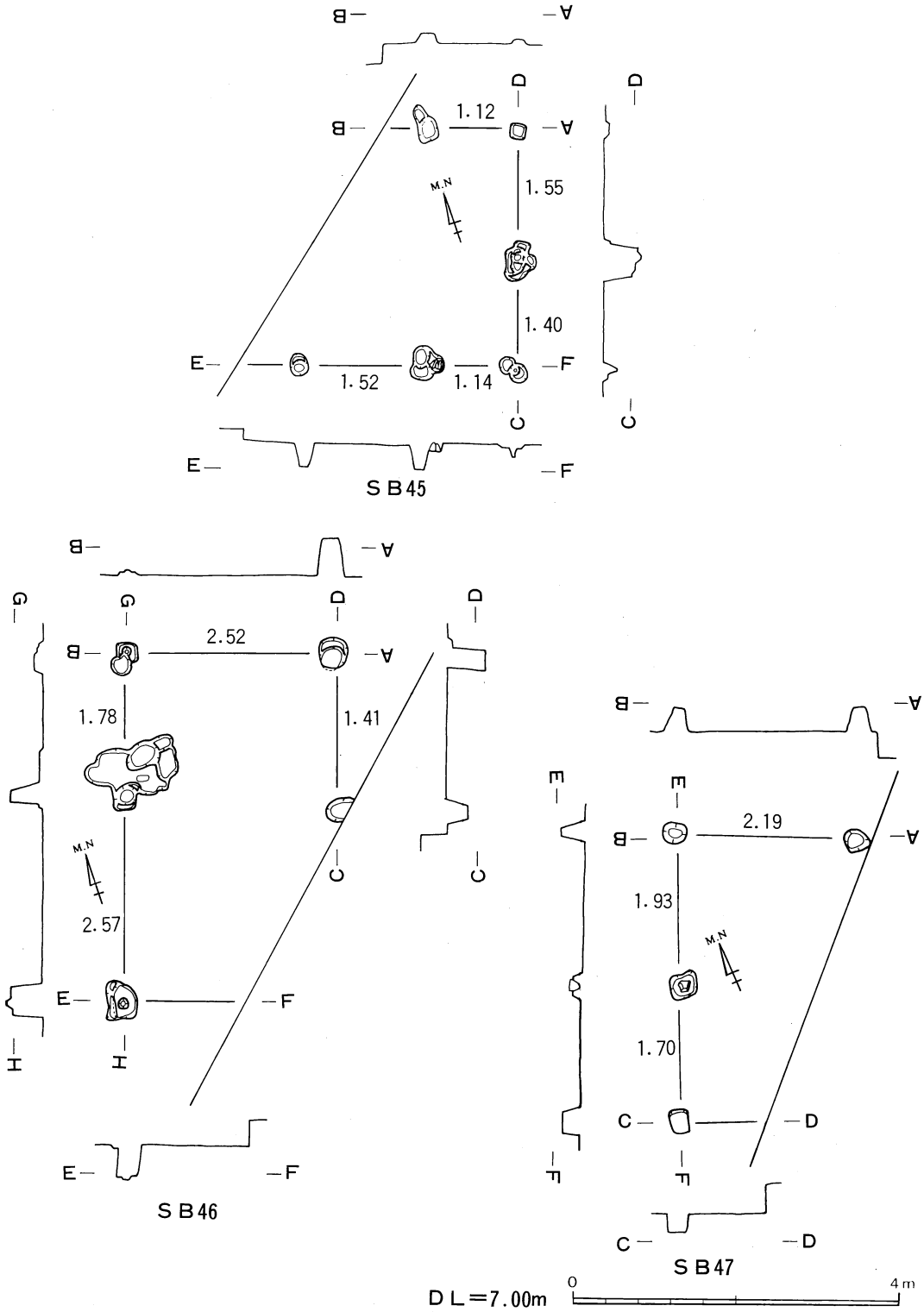
DL=7.00m

0 4m

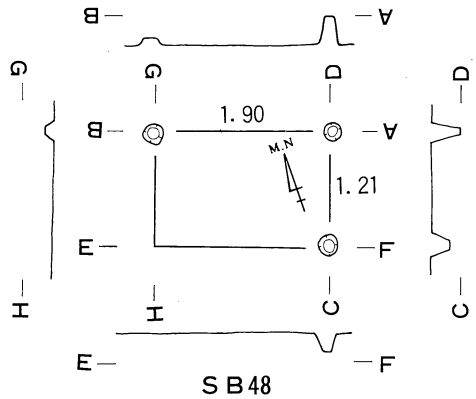
第256図　SB41・42



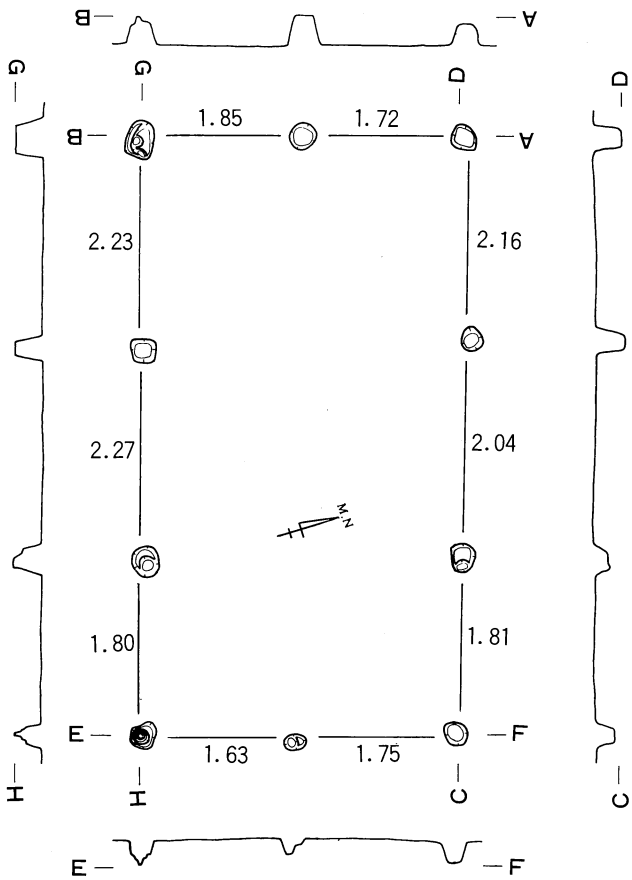
第257図　SB43・44



第258図　SB45～47



SB48

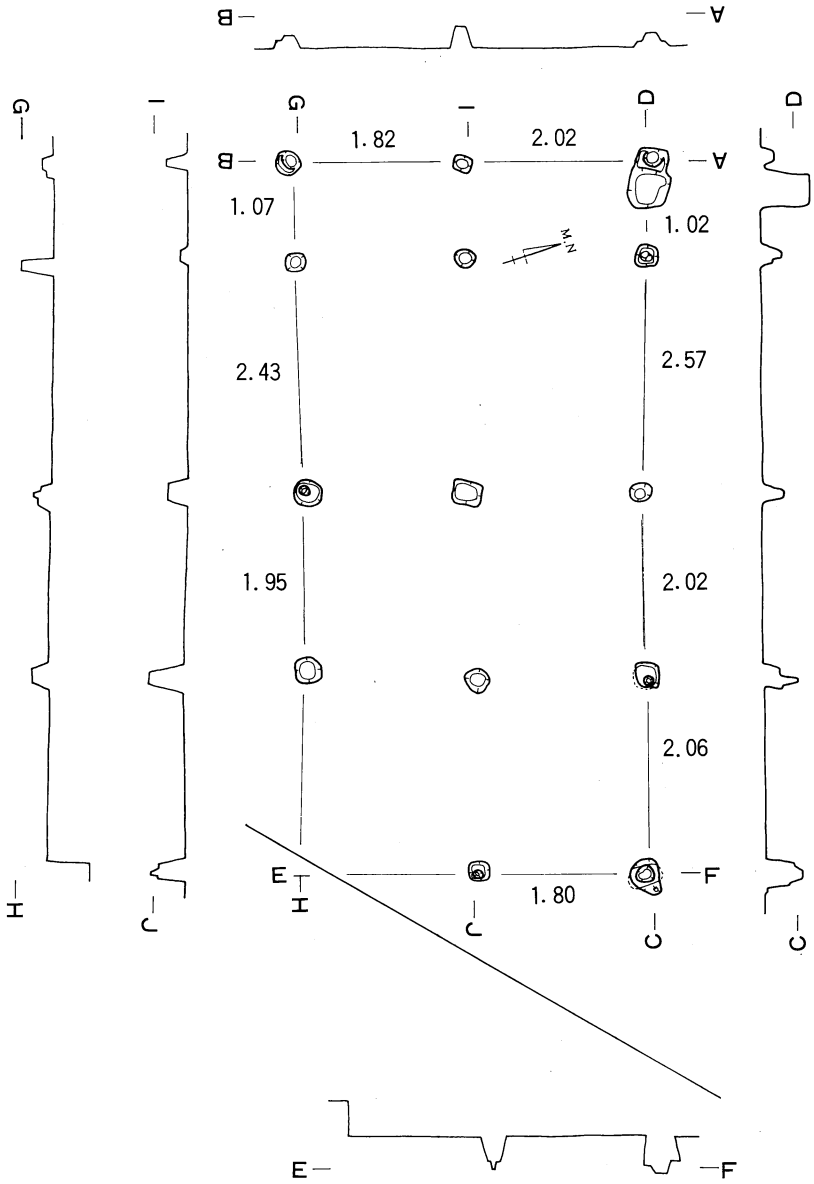


SB49

DL=7.00m

0 4m

第259図　SB48・49

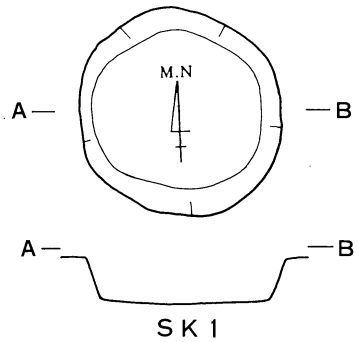


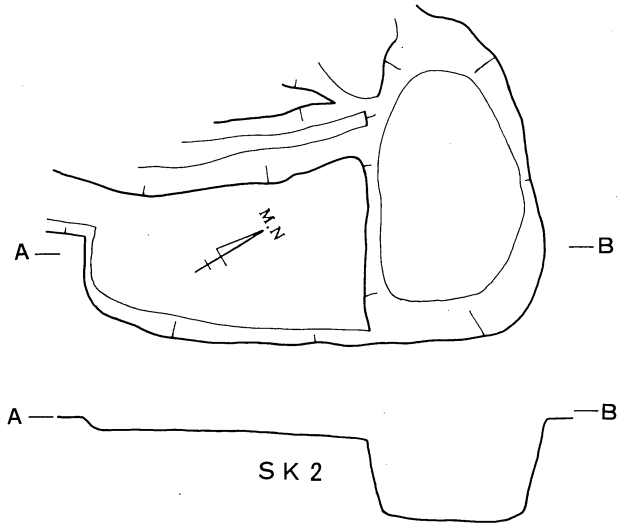
SB50

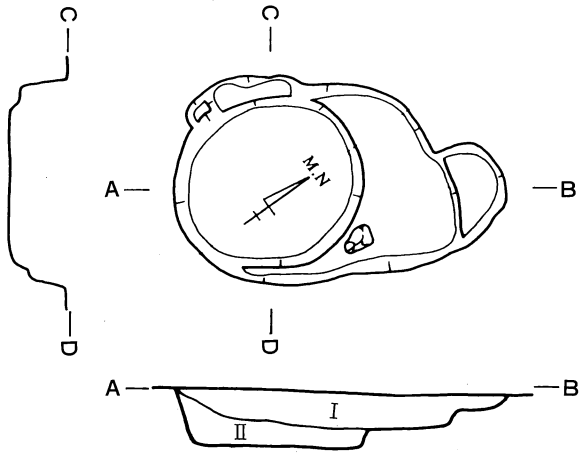
DL＝7.00m

0 4m

第260図　SB50



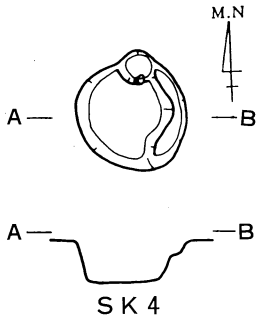




第Ⅰ層　灰色粘質土

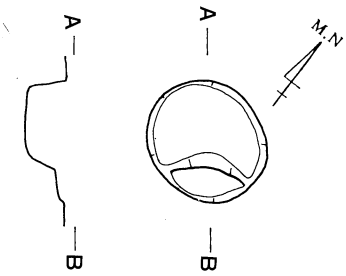
第Ⅱ層　暗灰色粘質土

SK 3

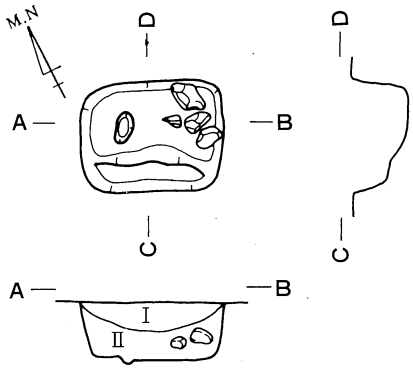


DL＝7.50m　0　4m

第261図　SK 1～4



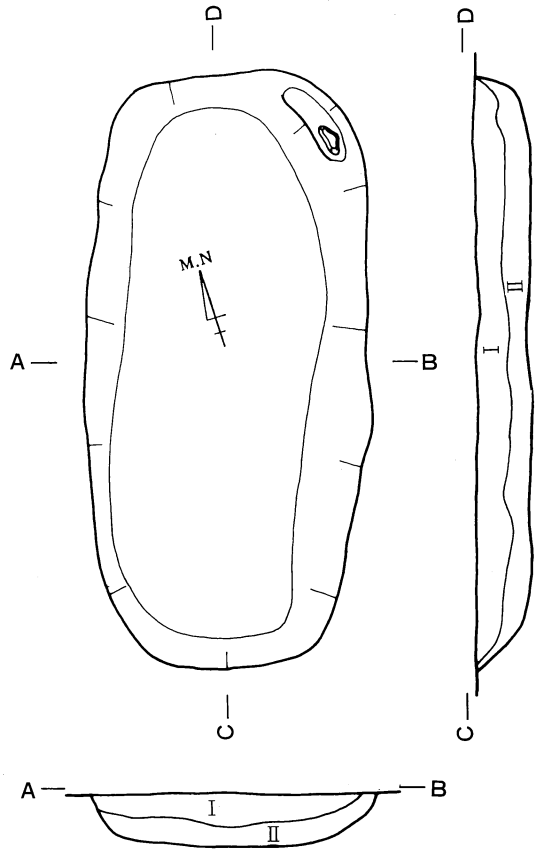
SK 5



第Ⅰ層　灰褐色粘質土

第Ⅱ層　暗灰褐色粘質土

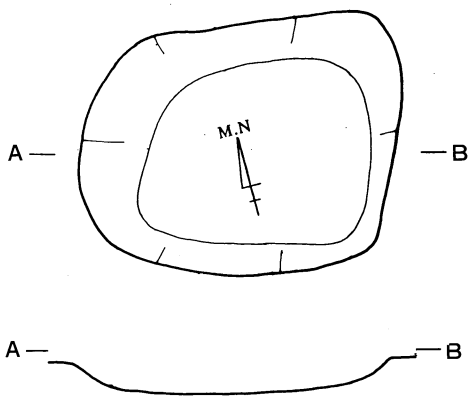
SK 6



第Ⅰ層　茶灰色粘質土

第Ⅱ層　灰色粘質土

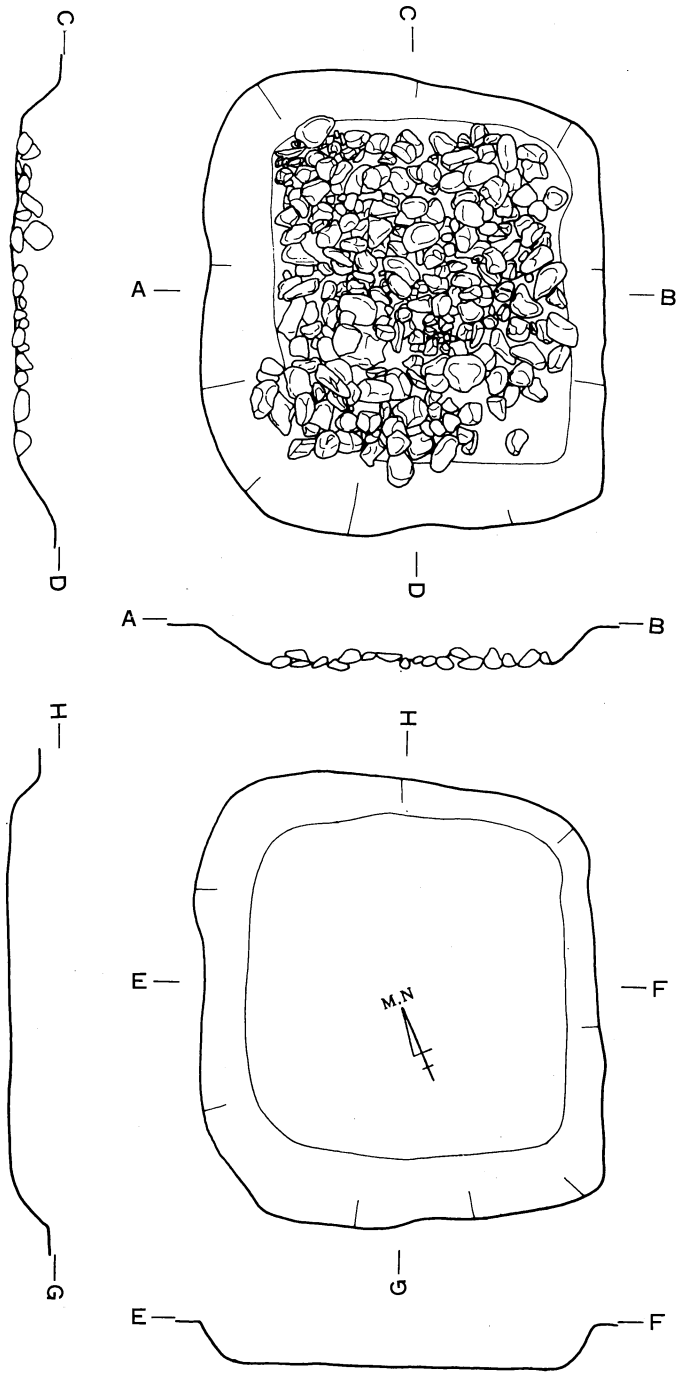
SK 8



SK 7

DL＝7.50m　0　4m

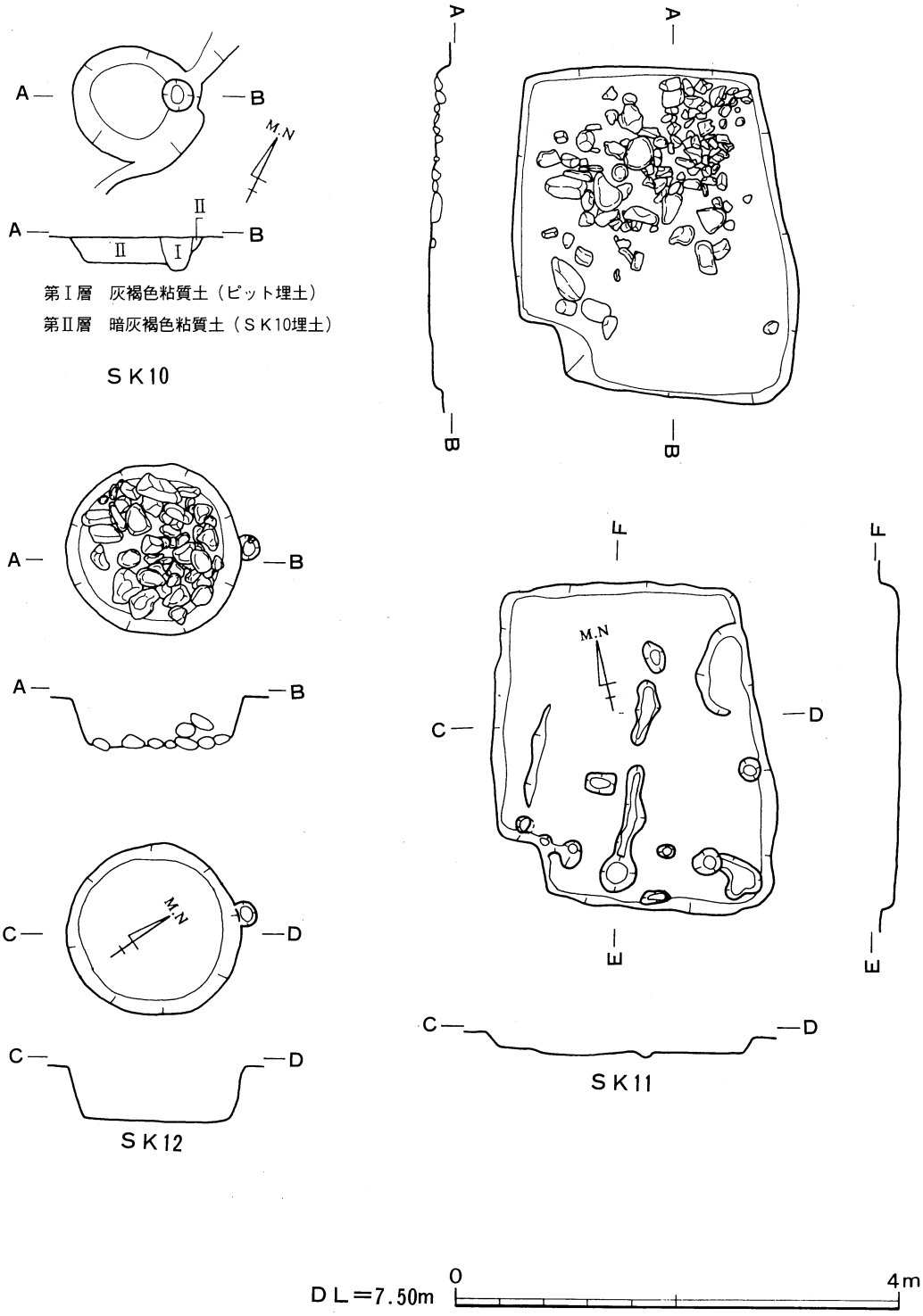
第262図　SK 5～8



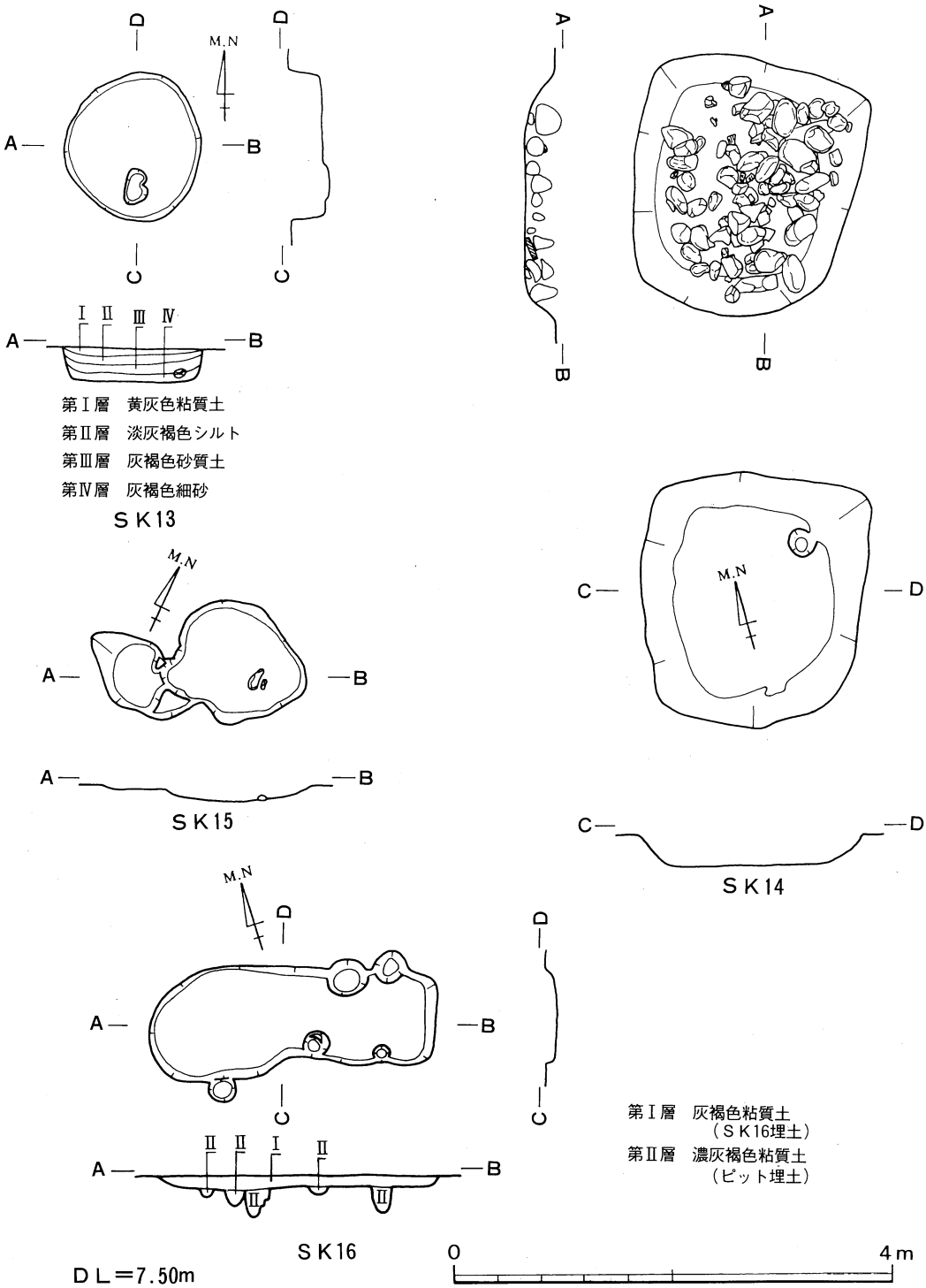
SK 9

DL＝7.50m　0　4m

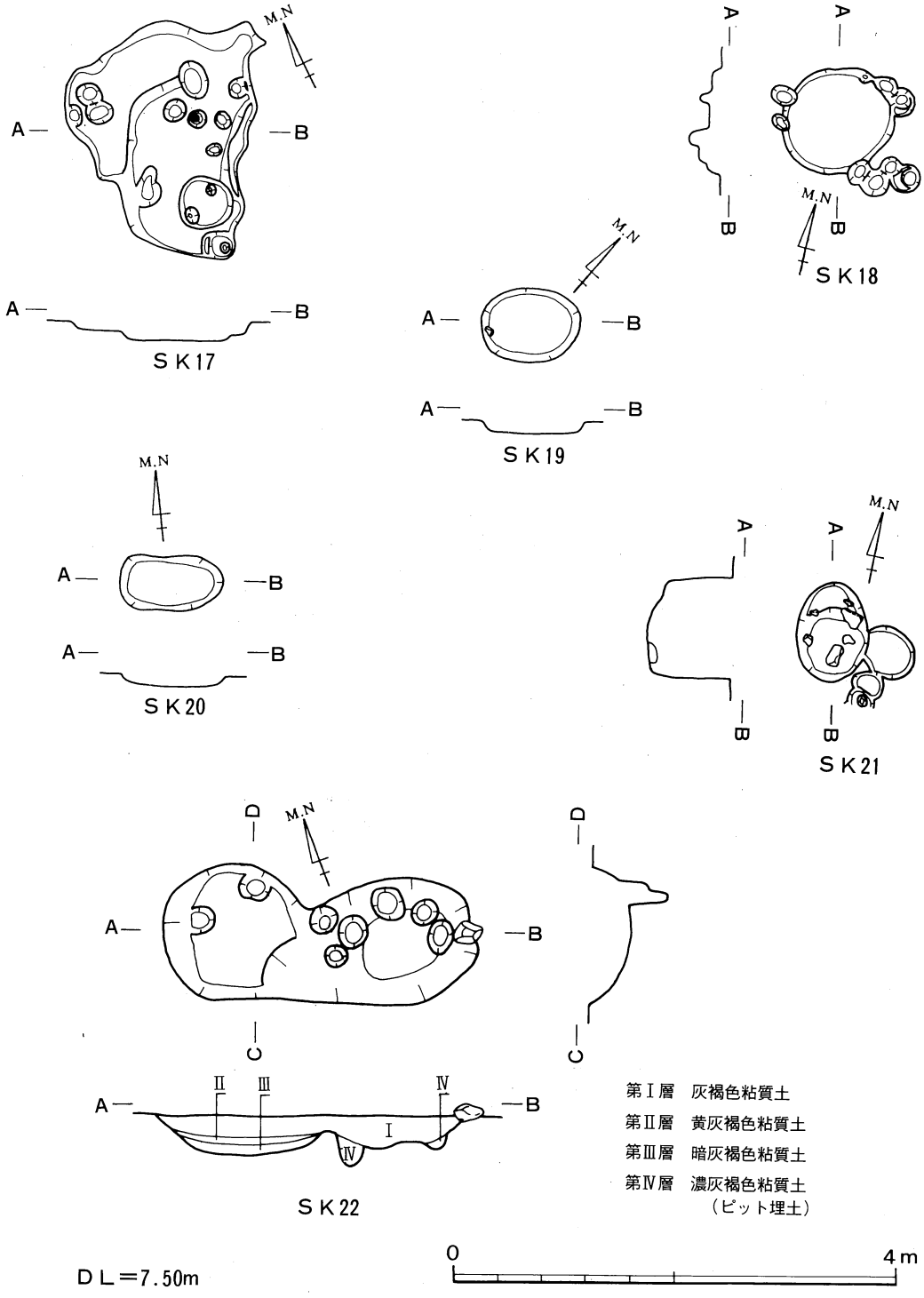
第263図　SK 9



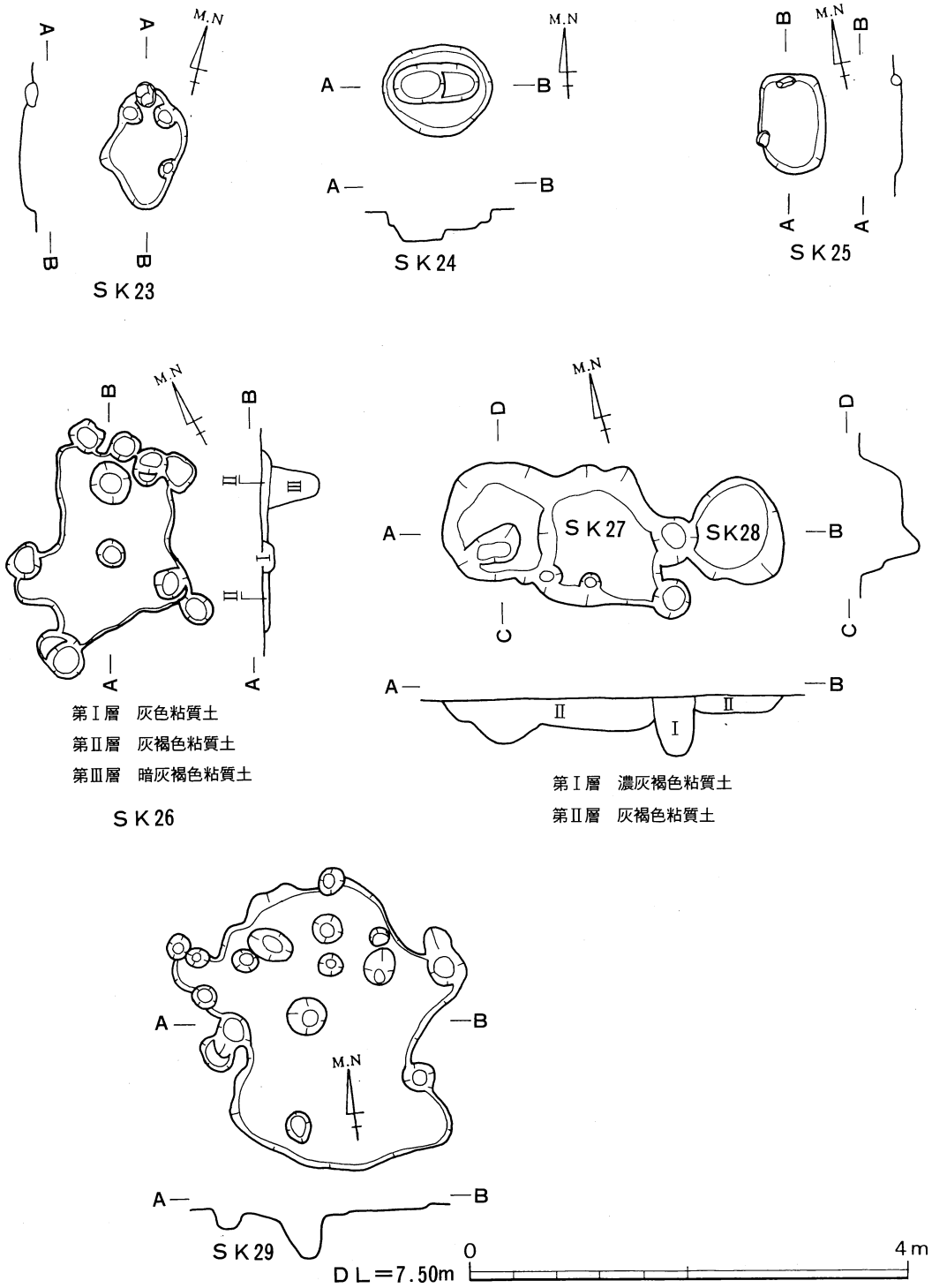
第264図　ＳＫ10～12



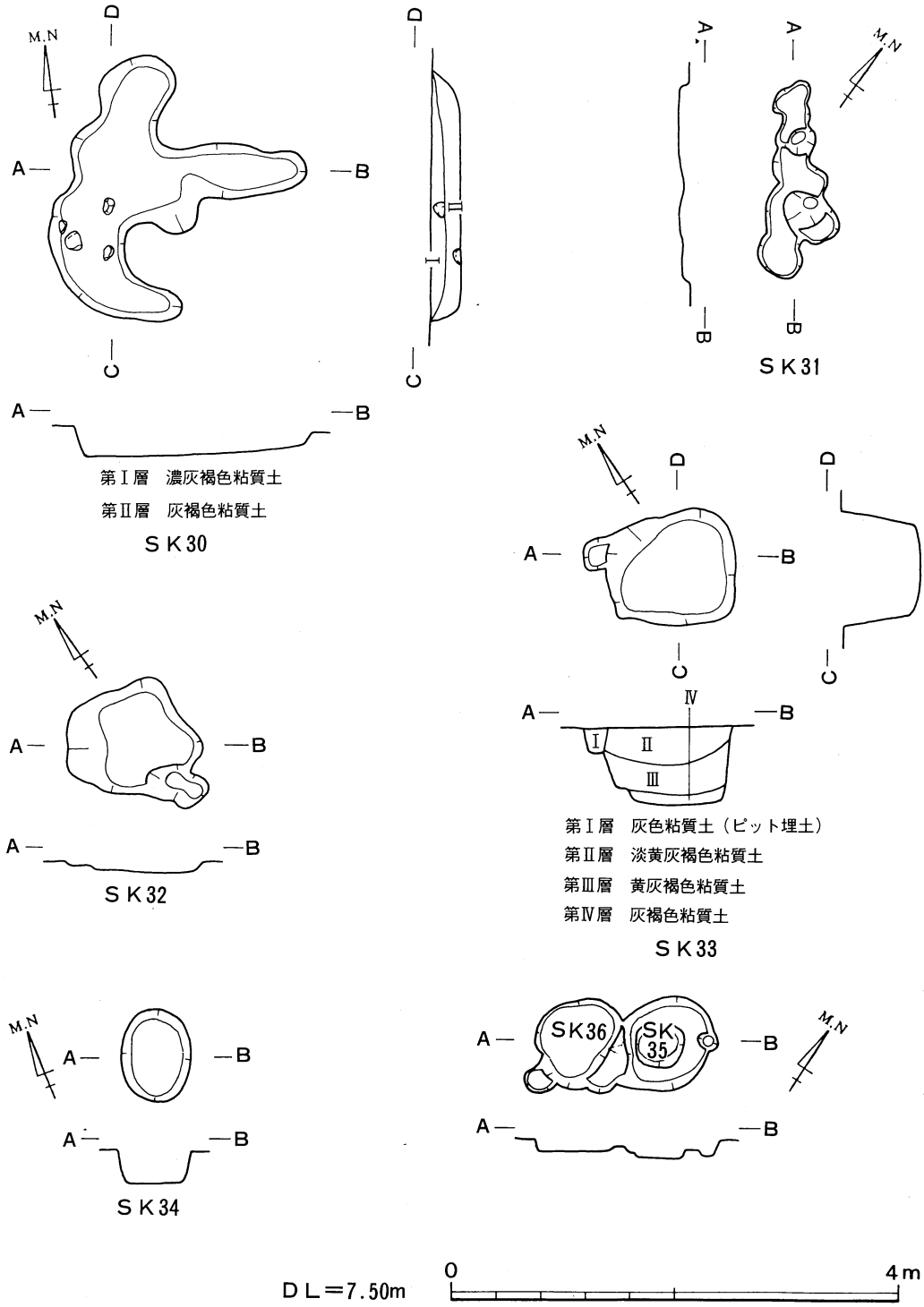
第265図　ＳＫ13～16



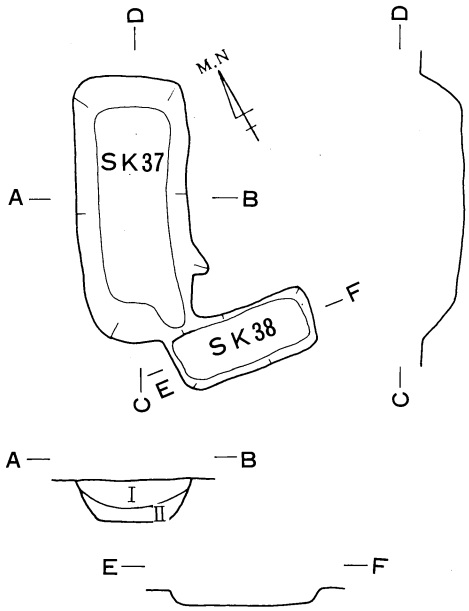
第266図　SK17～22



第267図　SK23～29

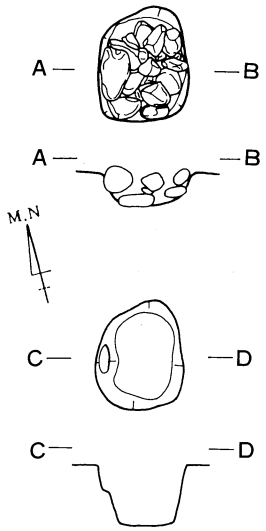


第268図　SK30～36

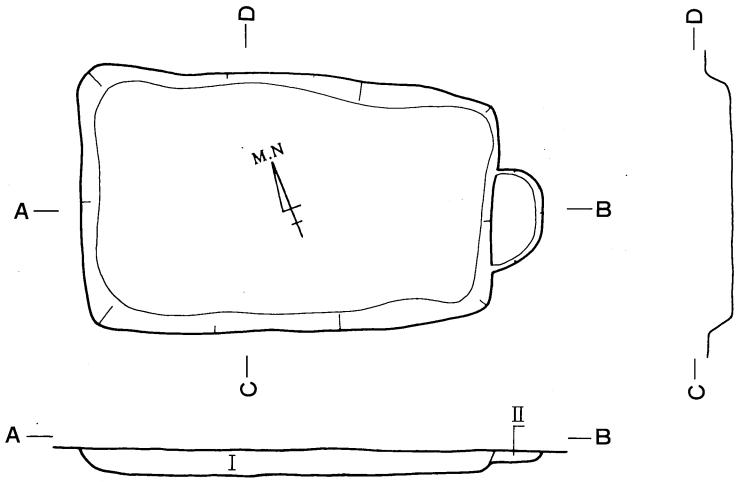


第Ⅰ層　灰褐色粘質土

第Ⅱ層　暗灰褐色粘質土



SK40



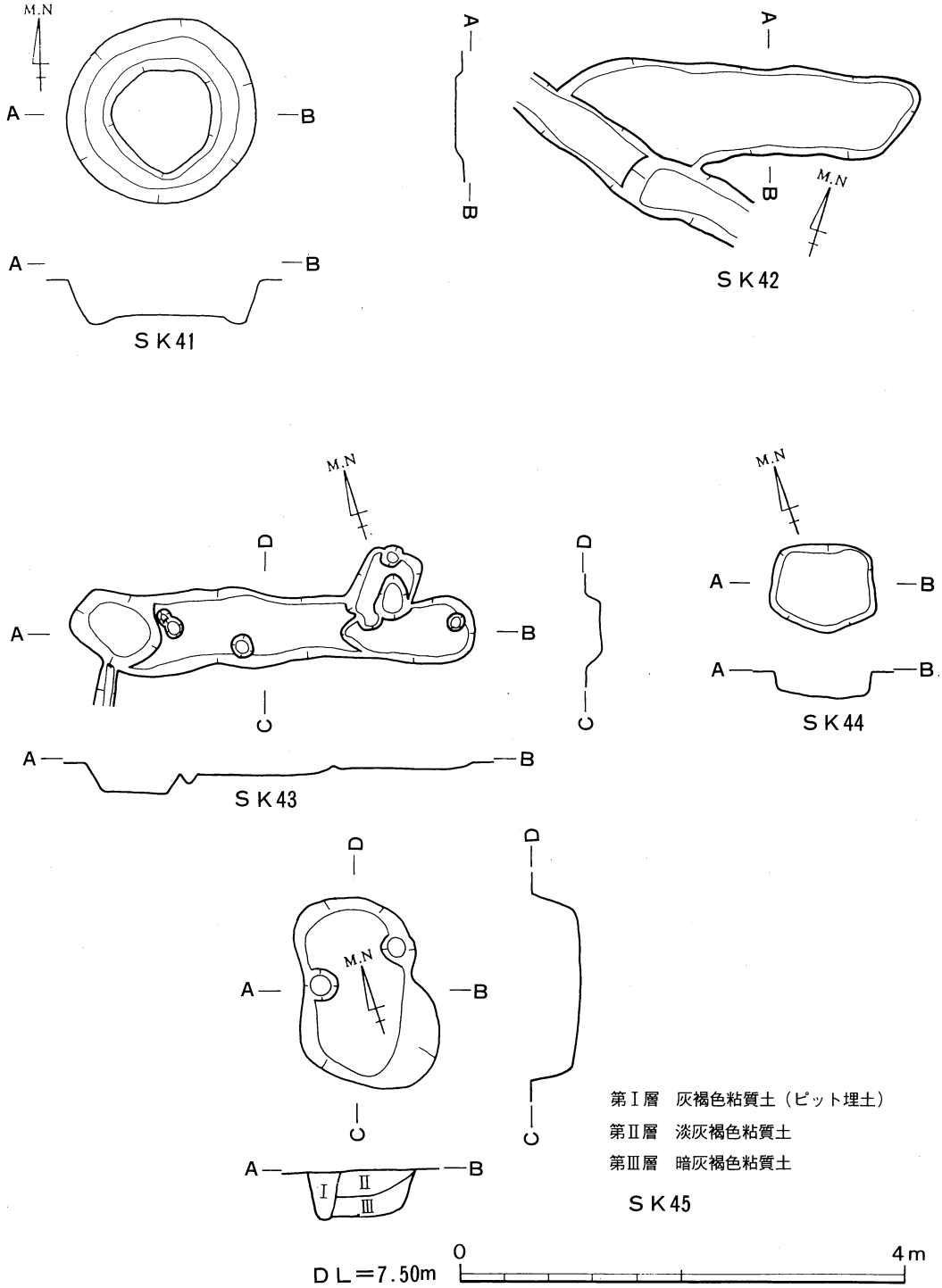
第Ⅰ層　灰色粘質土

第Ⅱ層　灰褐色粘質土

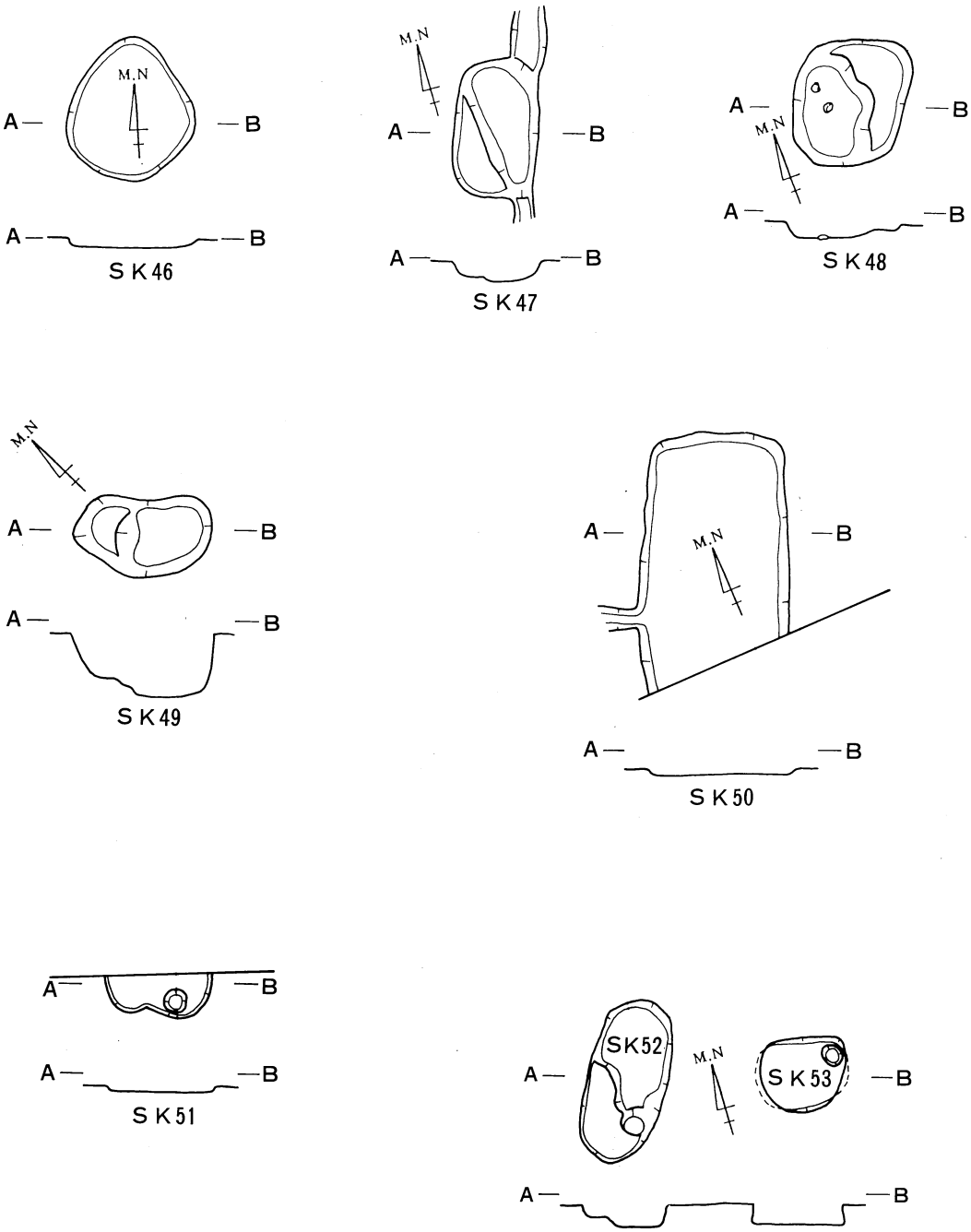
SK39

DL＝7.50m　0　4m

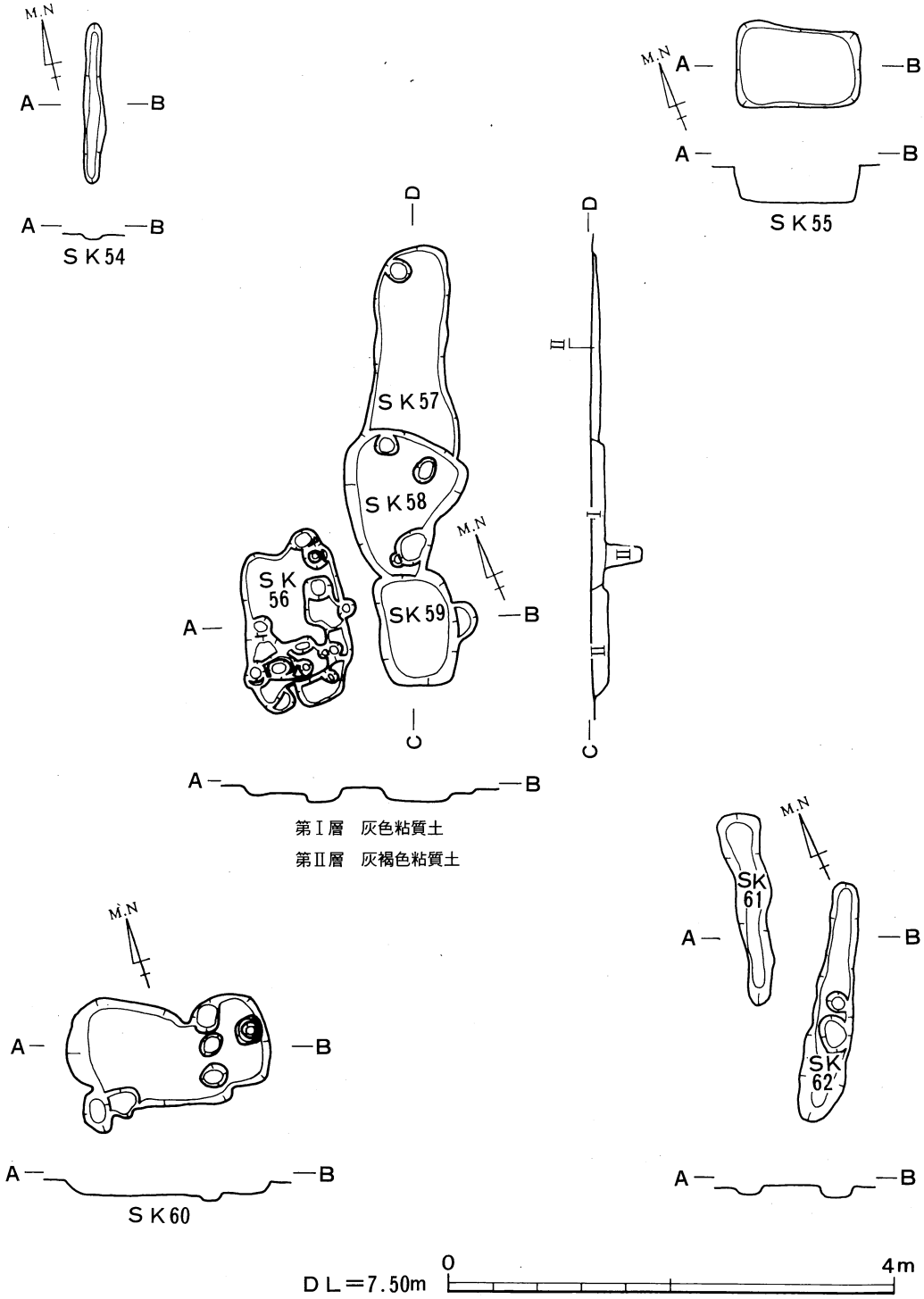
第269図　SK37～40



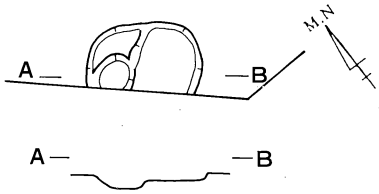
第270図　SK41～45



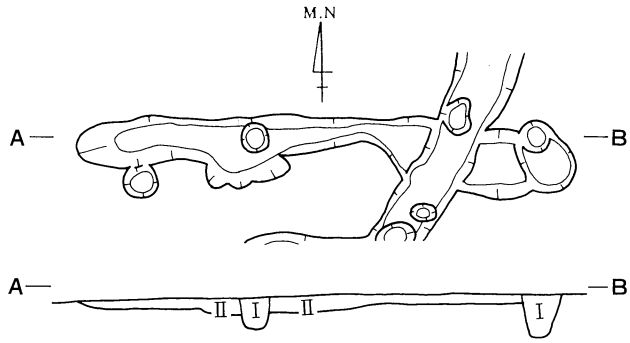
第271図　SK46～53



第272図　ＳＫ54～62



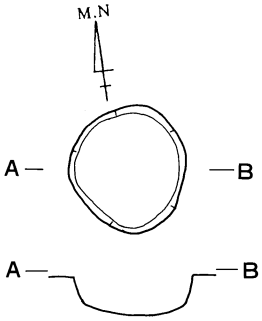
SK63



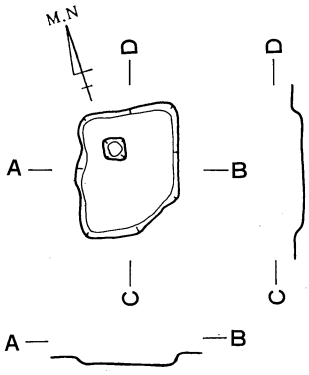
第Ⅰ層　灰褐色粘質土

第Ⅱ層　暗灰褐色粘質土

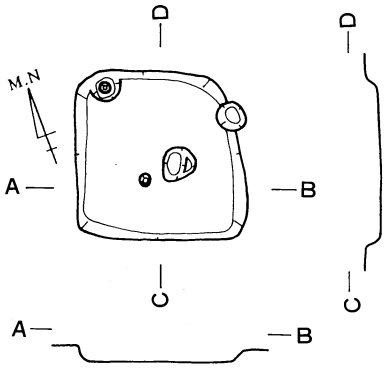
SK64



SK65



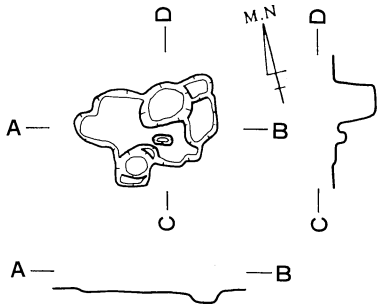
SK66



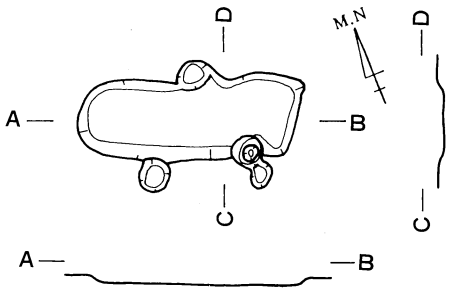
SK67

DL＝7.50m　0　4m

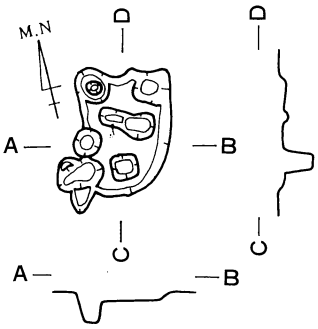
第273図　SK63～67



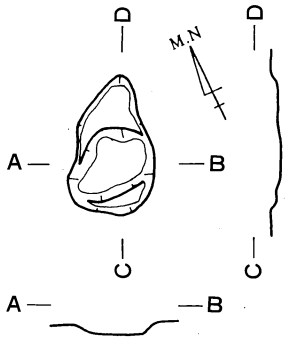
SK68



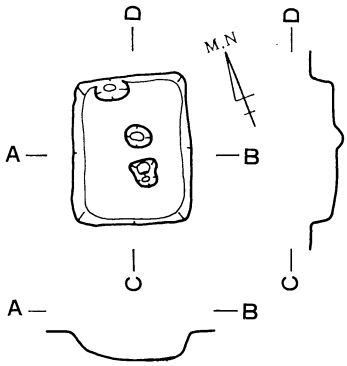
SK69



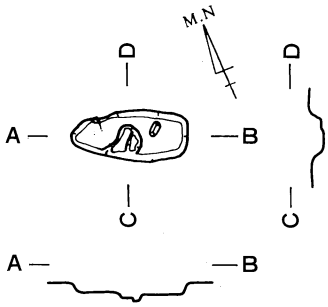
SK70



SK71



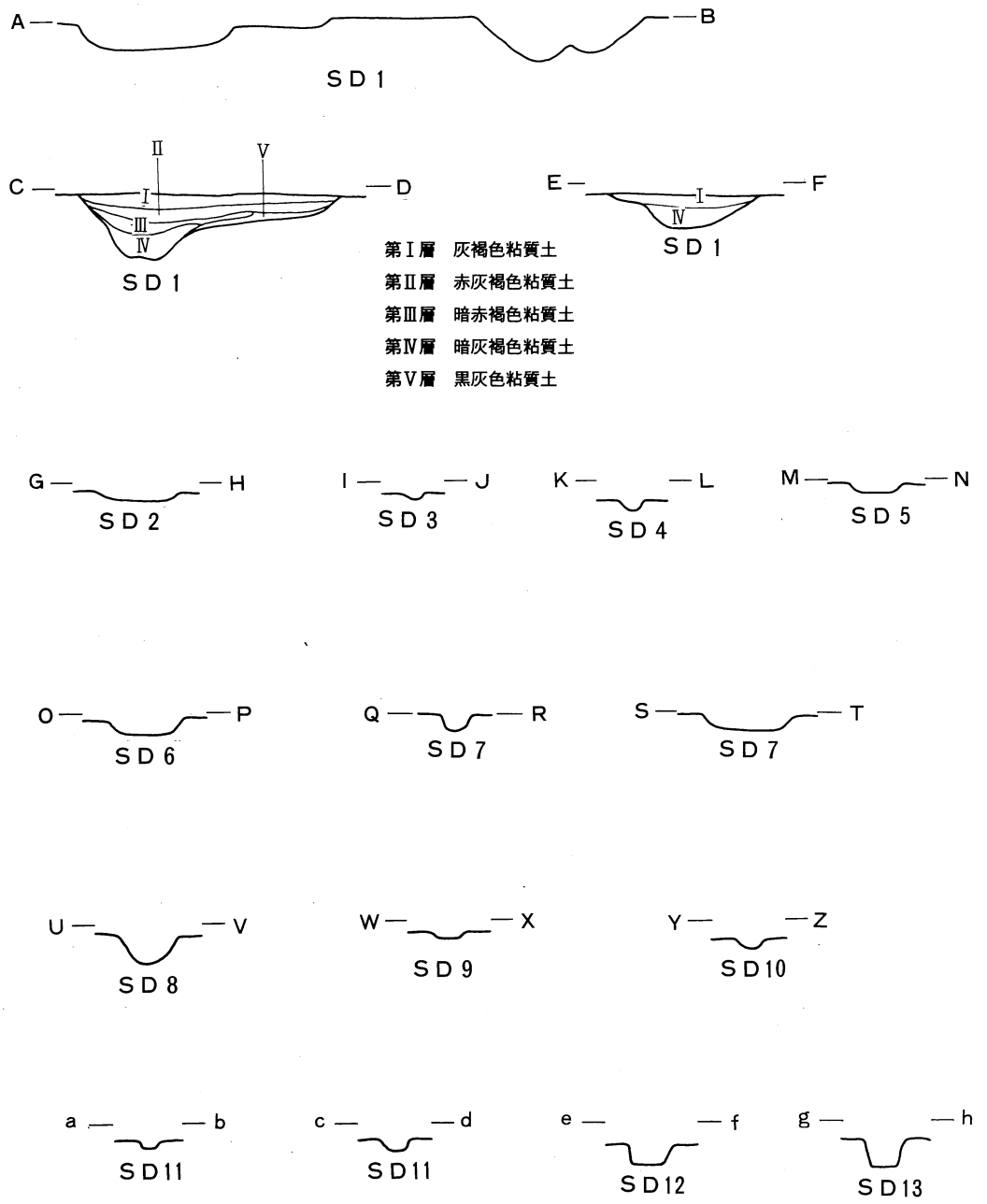
SK72



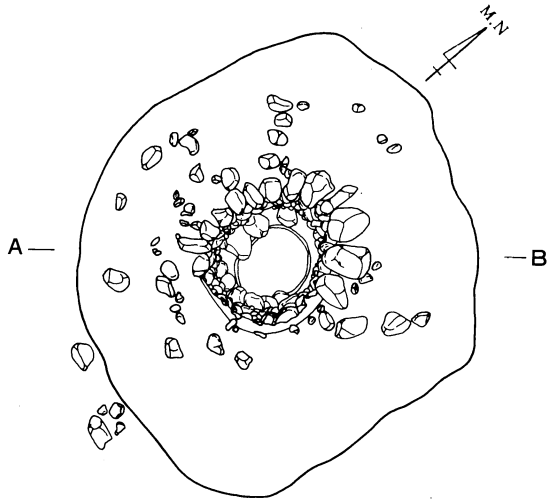
SK73

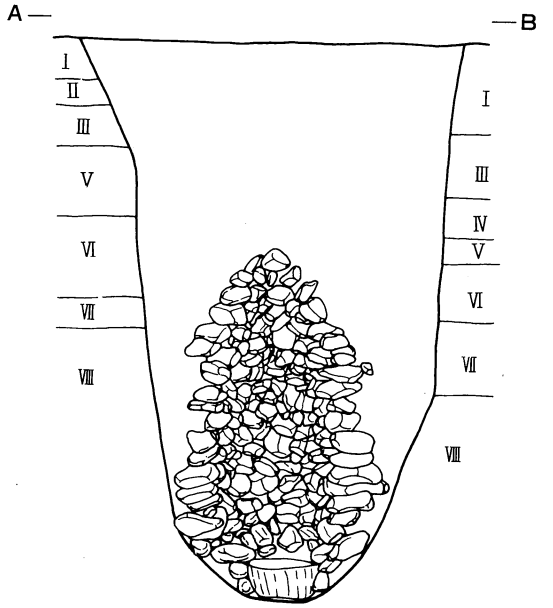
DL＝7.50m　0　4m

第274図　SK68～73


A
B
SD1
C
D
Ⅱ
Ⅴ
Ⅰ
Ⅲ
Ⅳ
SD1
E
F
Ⅰ
Ⅳ
SD1
第Ⅰ層　灰褐色粘質土
第Ⅱ層　赤灰褐色粘質土
第Ⅲ層　暗赤褐色粘質土
第Ⅳ層　暗灰褐色粘質土
第Ⅴ層　黒灰色粘質土
G
H
SD2
I
J
SD3
K
L
SD4
M
N
SD5
O
P
SD6
Q
R
SD7
S
T
SD7
U
V
SD8
W
X
SD9
Y
Z
SD10
a
b
SD11
c
d
SD11
e
f
SD12
g
h
SD13
DL=7.50m
0
4m

第275 図　SD1～14





第Ⅰ層　暗黄褐色粘質土

第Ⅱ層　灰褐色細砂

第Ⅲ層　黒褐色粘質土

第Ⅳ層　黄褐色粘質土

第Ⅴ層　暗灰荒砂

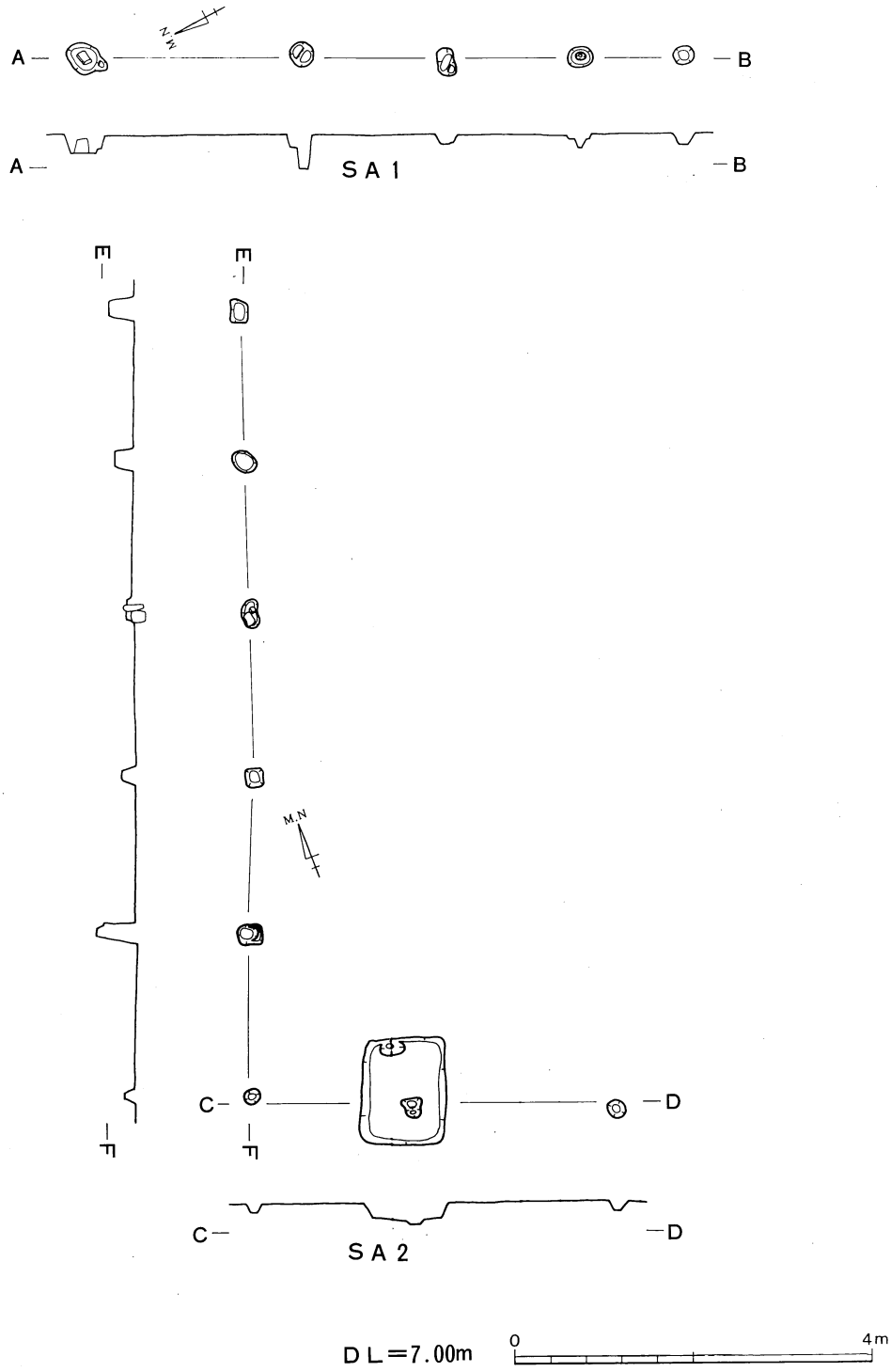
第Ⅵ層　青灰色細砂

第Ⅶ層　茶褐色砂礫

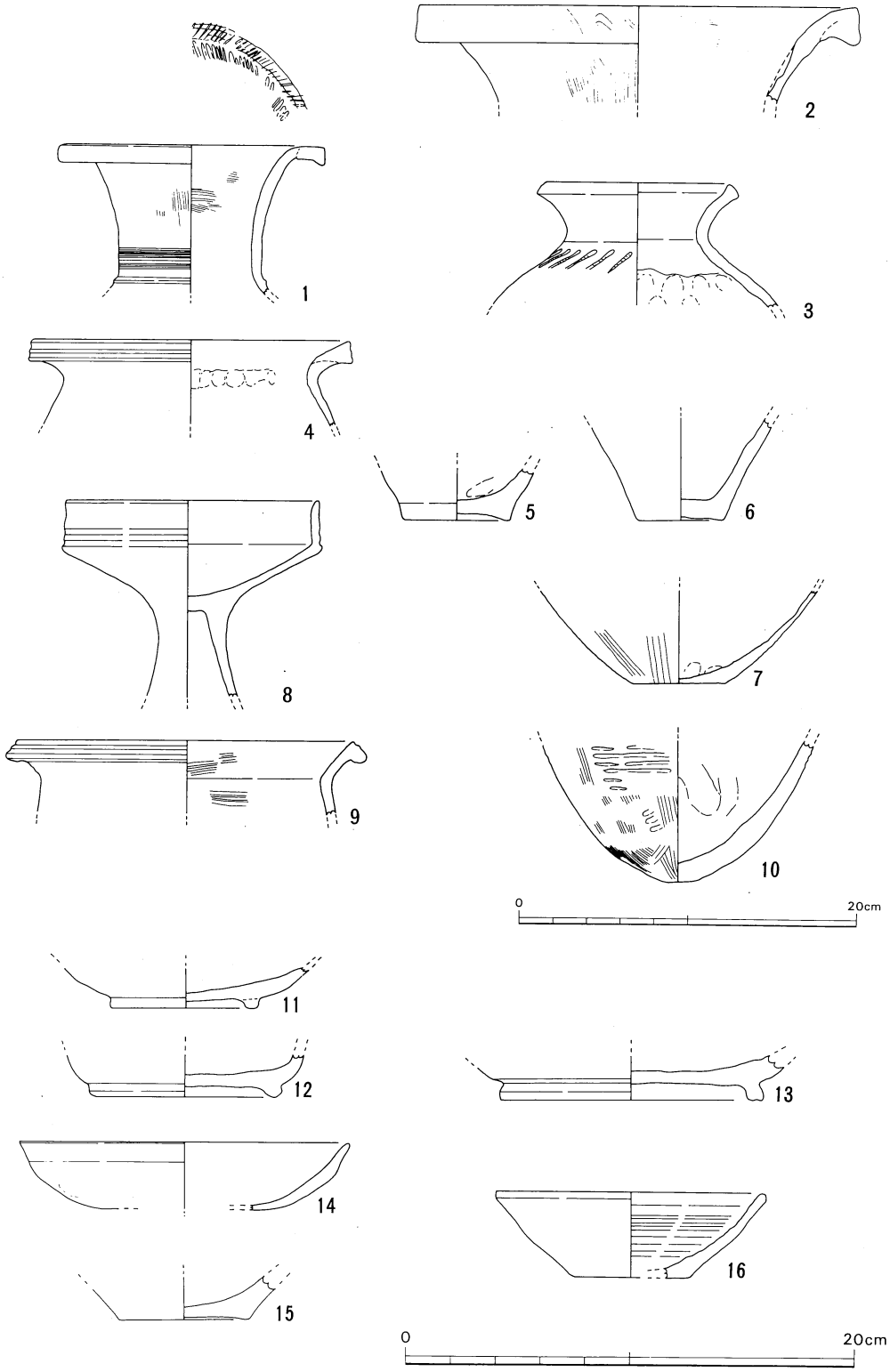
第Ⅷ層　暗褐色砂礫

DL＝7.50m　0　4m

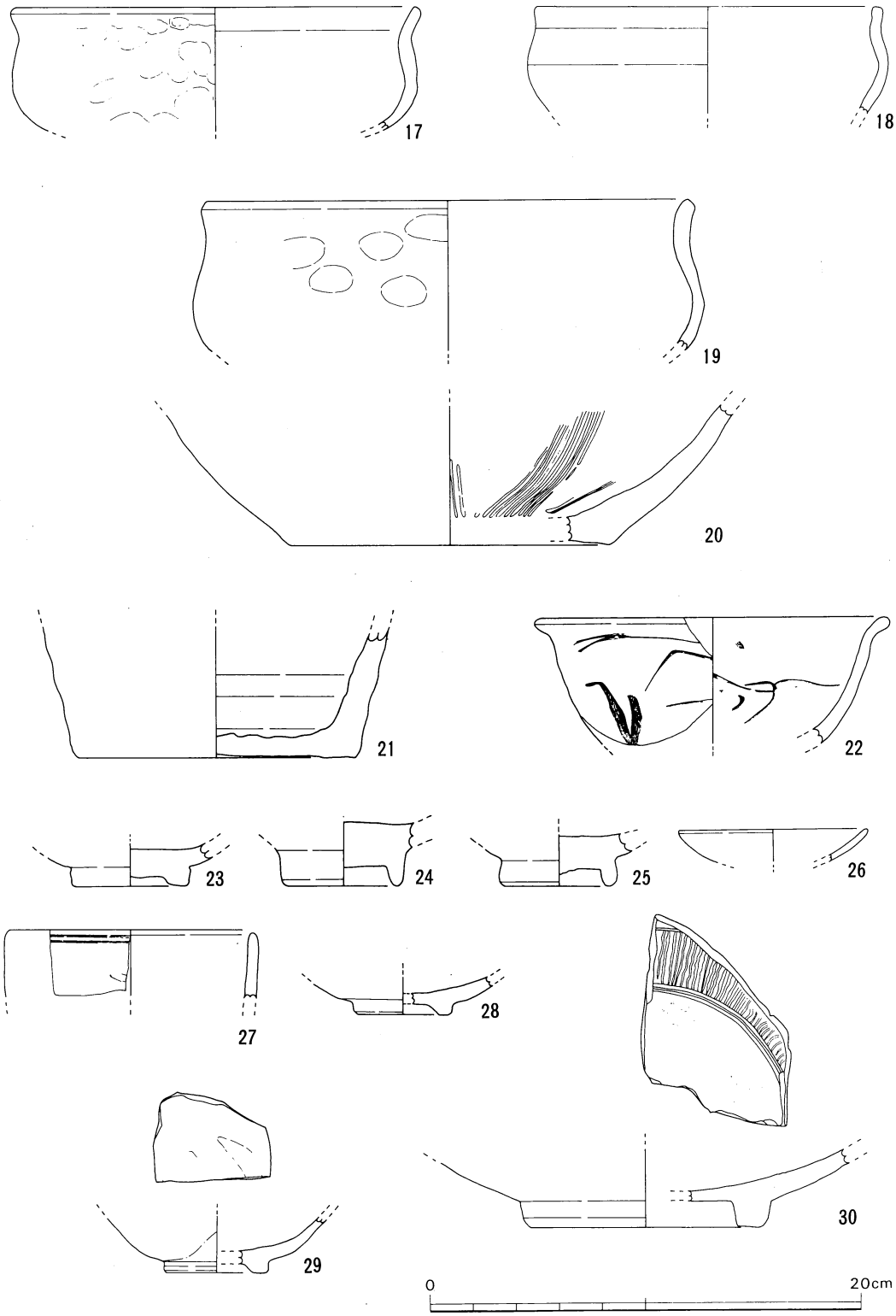
第276図　ＳＥ１



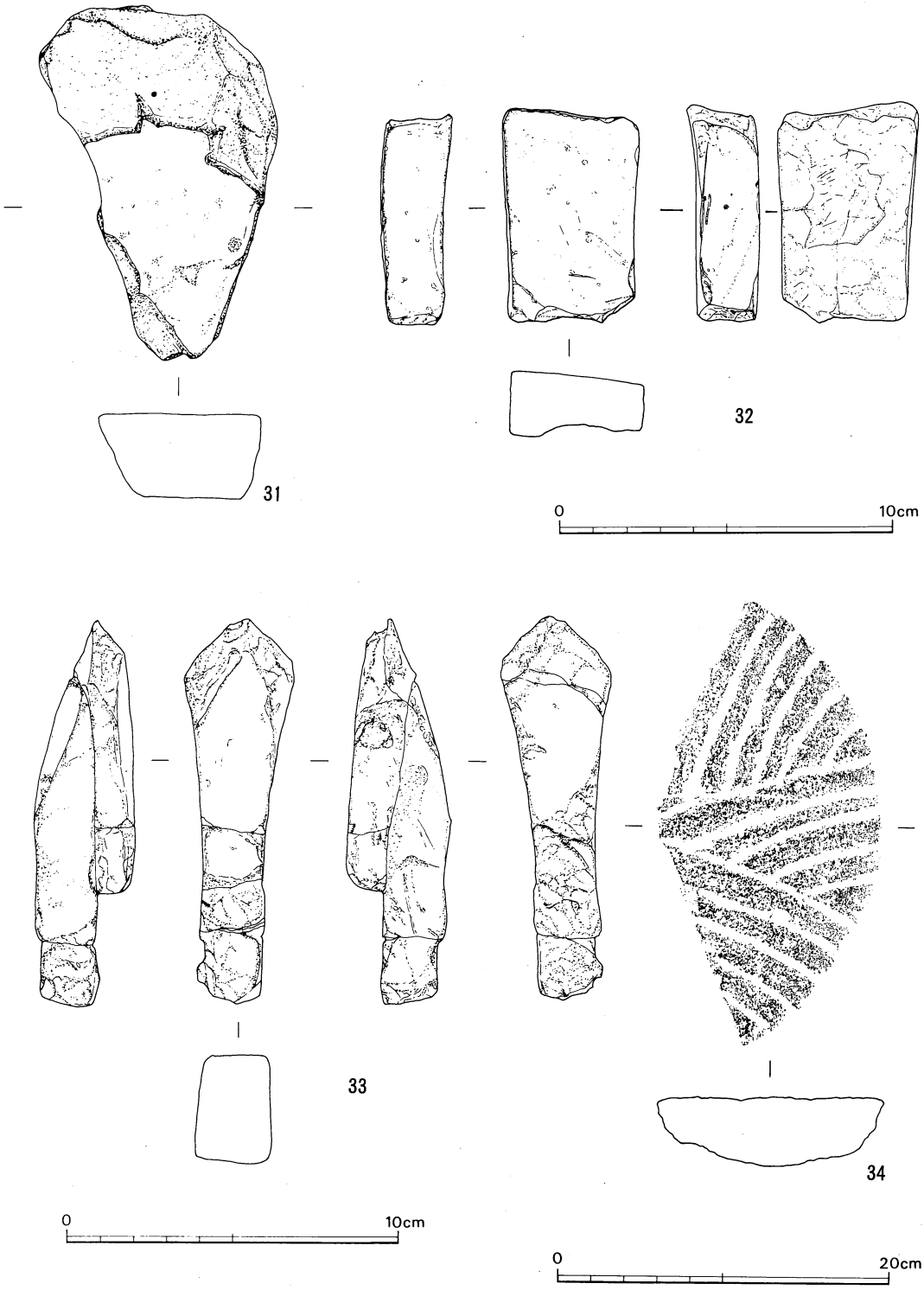
第277図　SA1・2



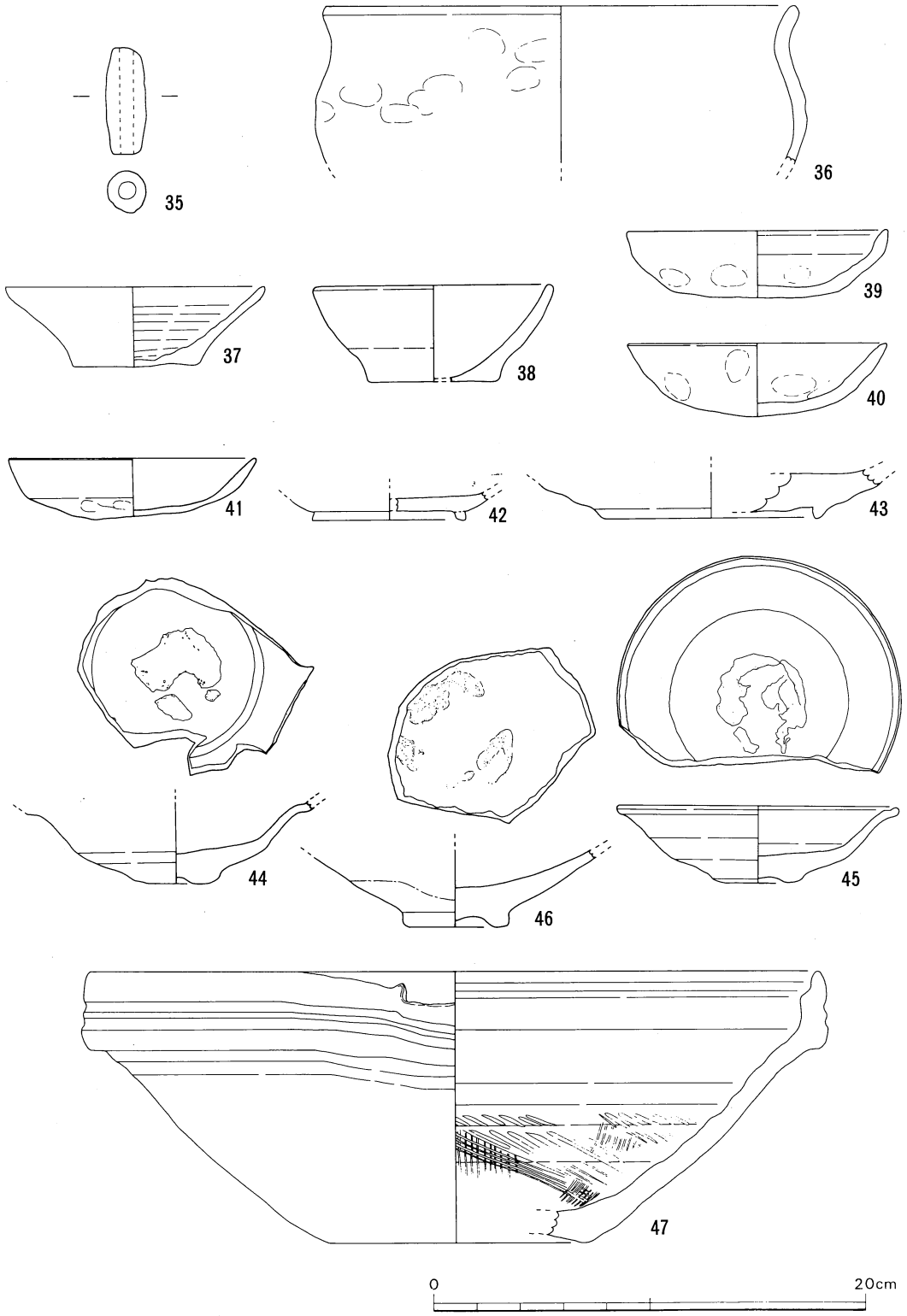
第278図　第Ⅲ層　出土遺物



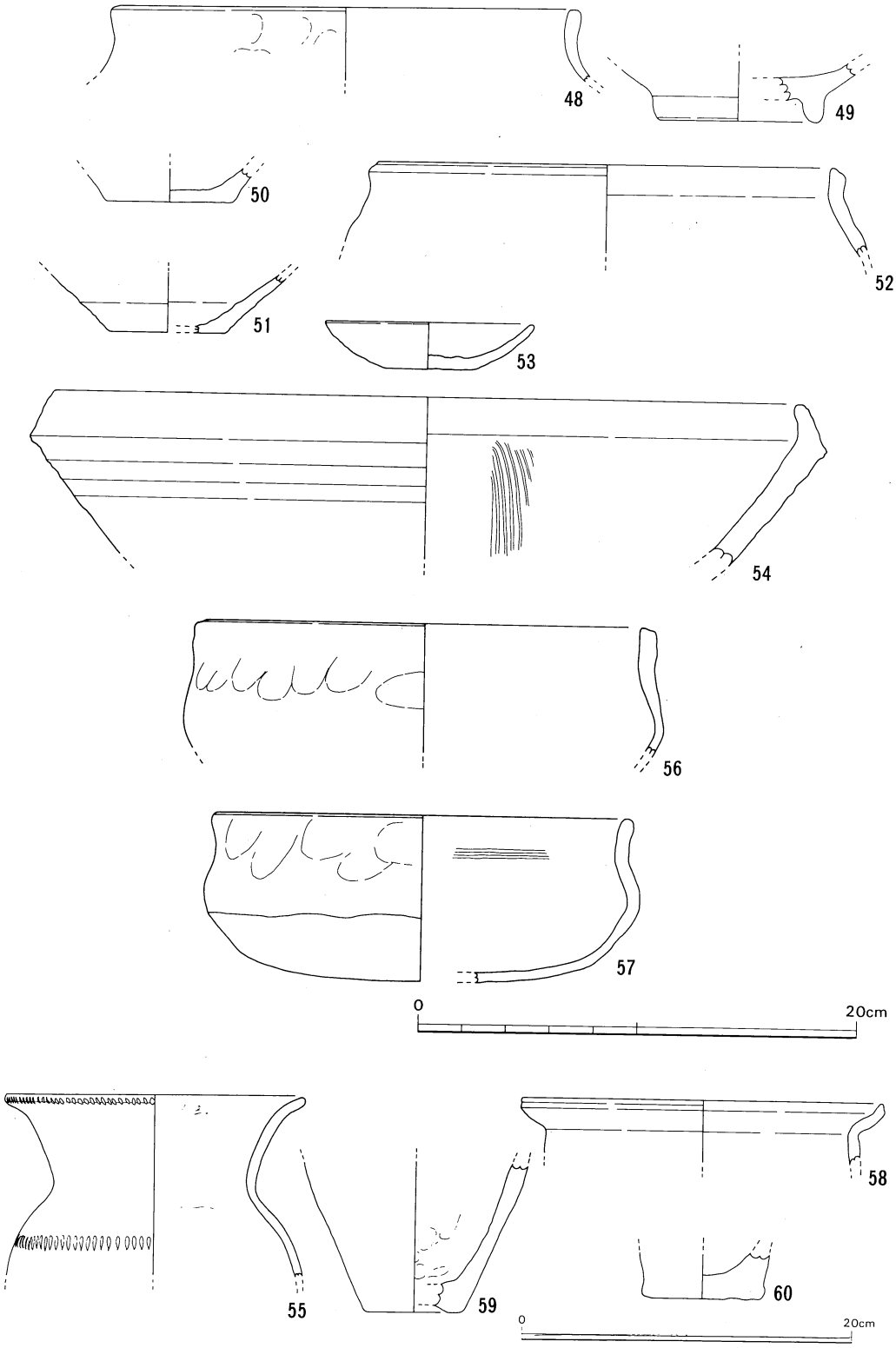
第279図　第Ⅲ層　出土遺物



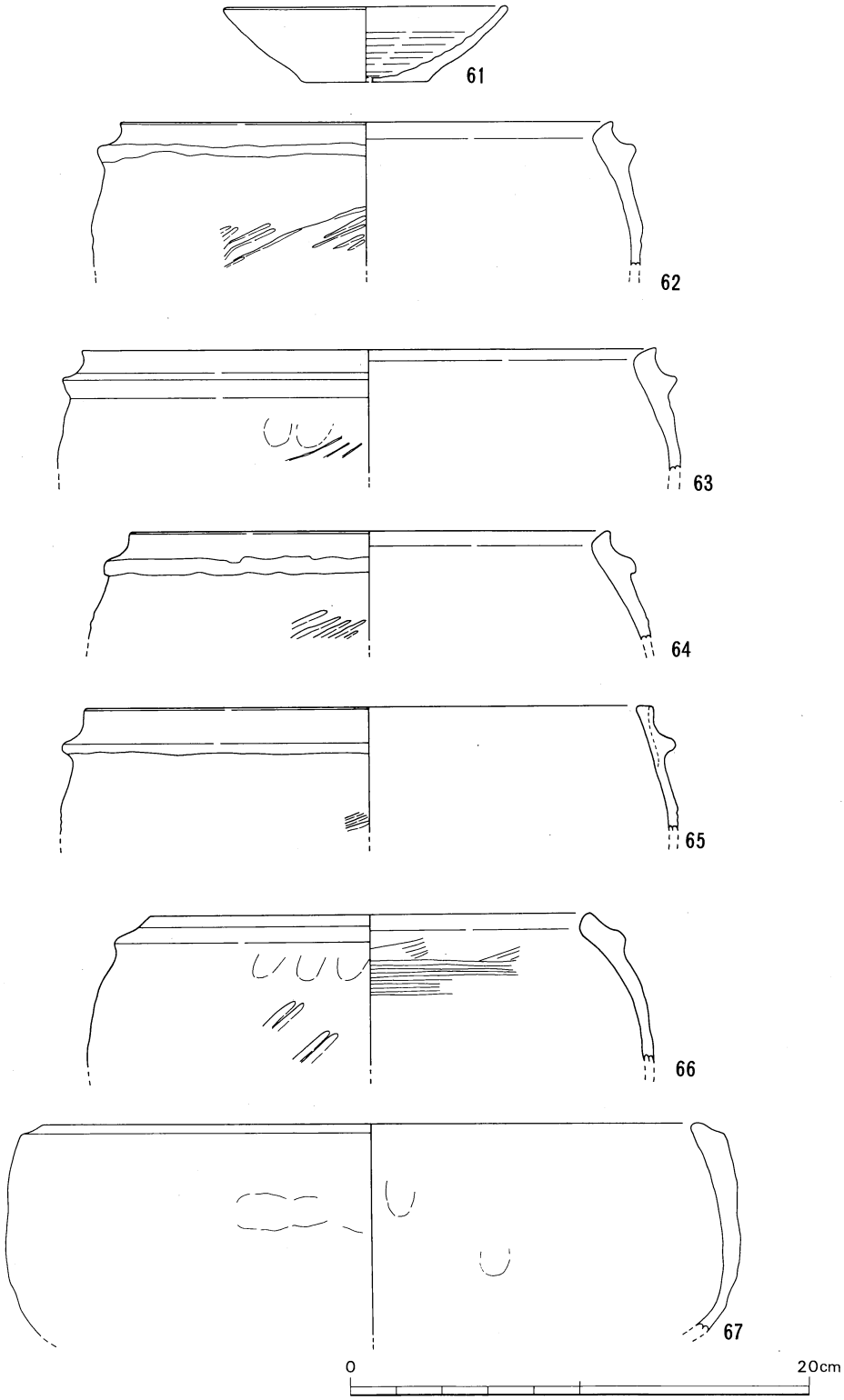
第280図　第Ⅲ層　出土遺物



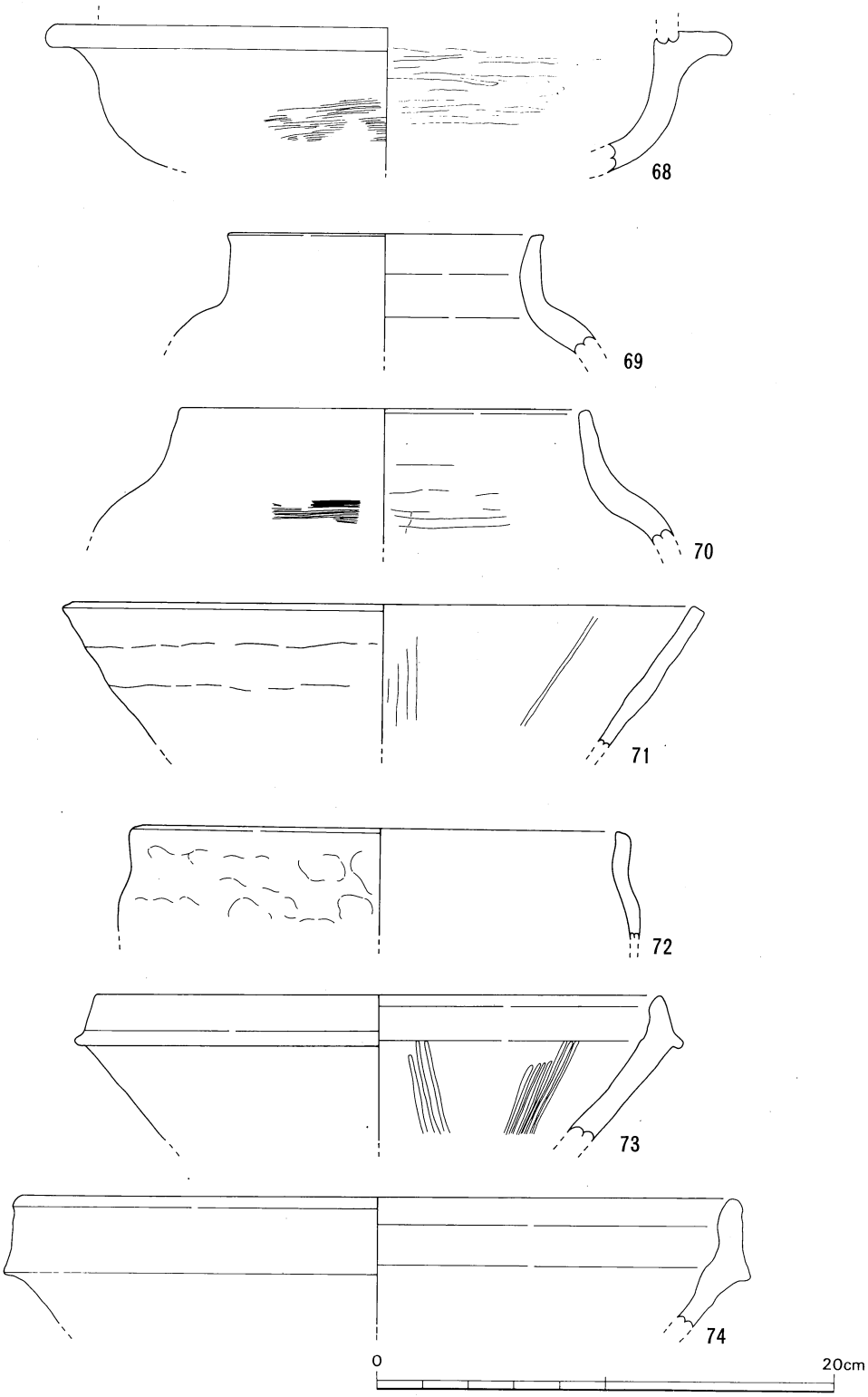
第281図　ＳＢ５・20・26・29・30、ＳＫ４・７・９・11・12・14　出土遺物



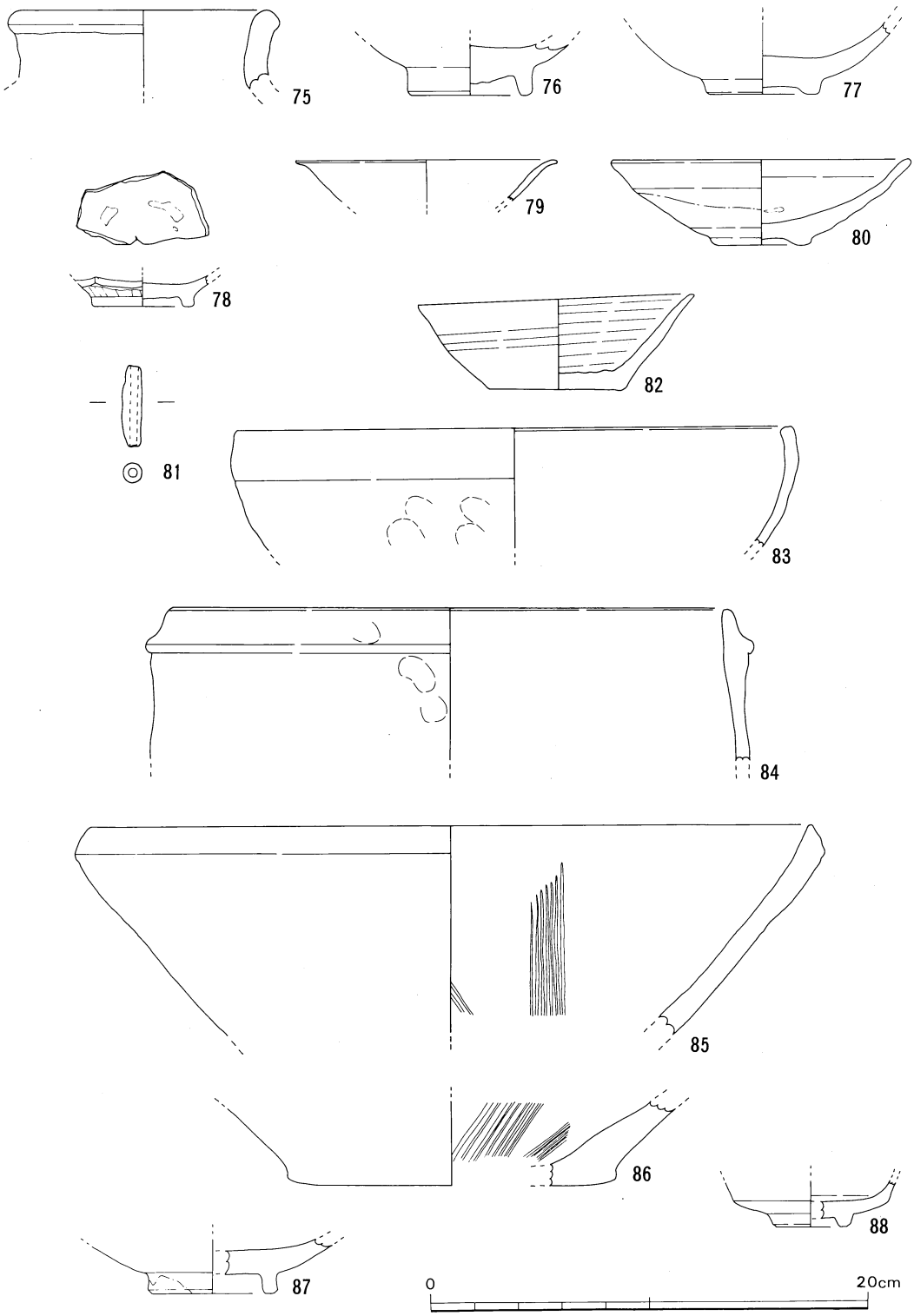
第282図　ＳＫ22・29・36・39・40・42・49・63、ＳＤ１　出土遺物



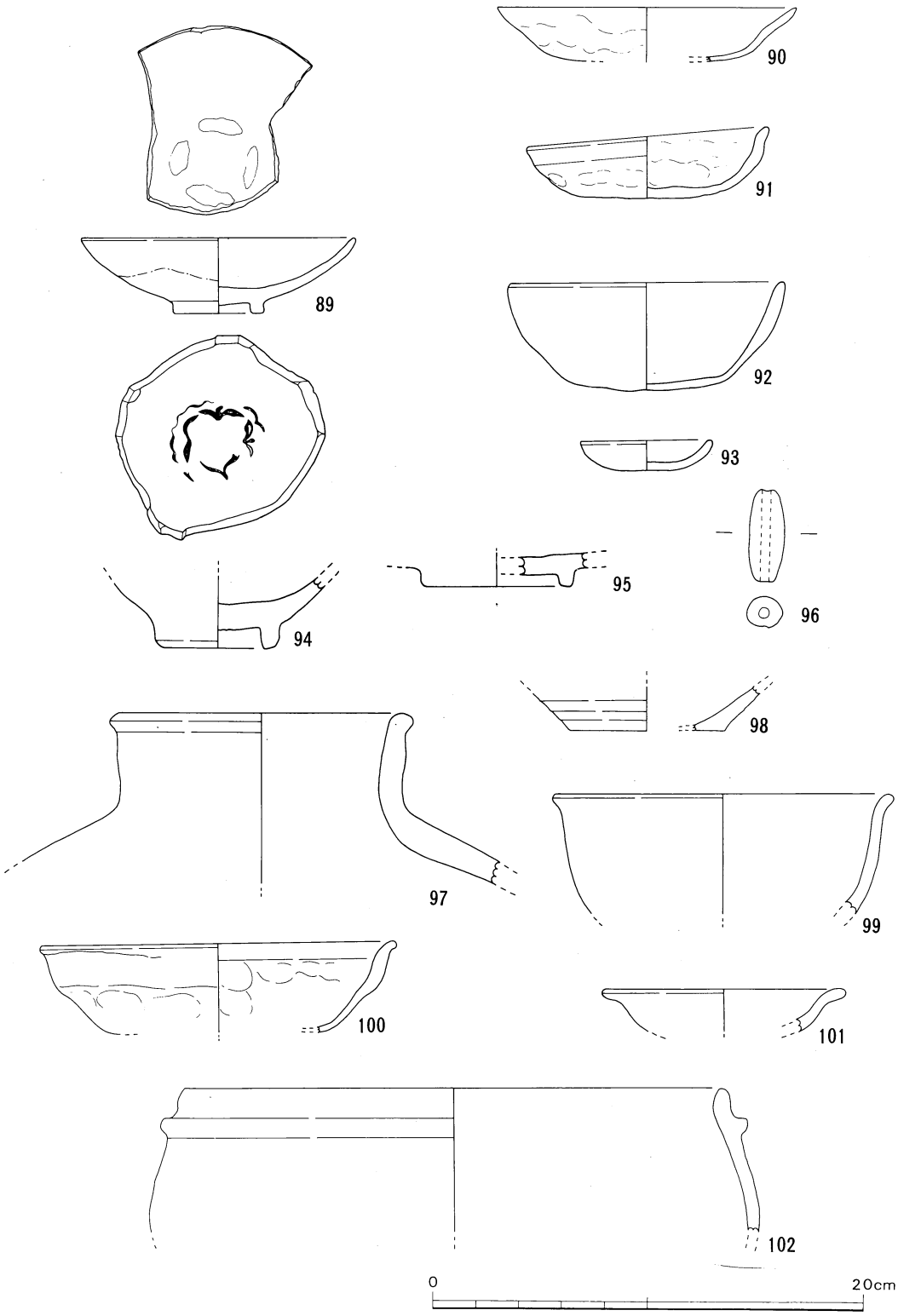
第283図　ＳＤ１　出土遺物



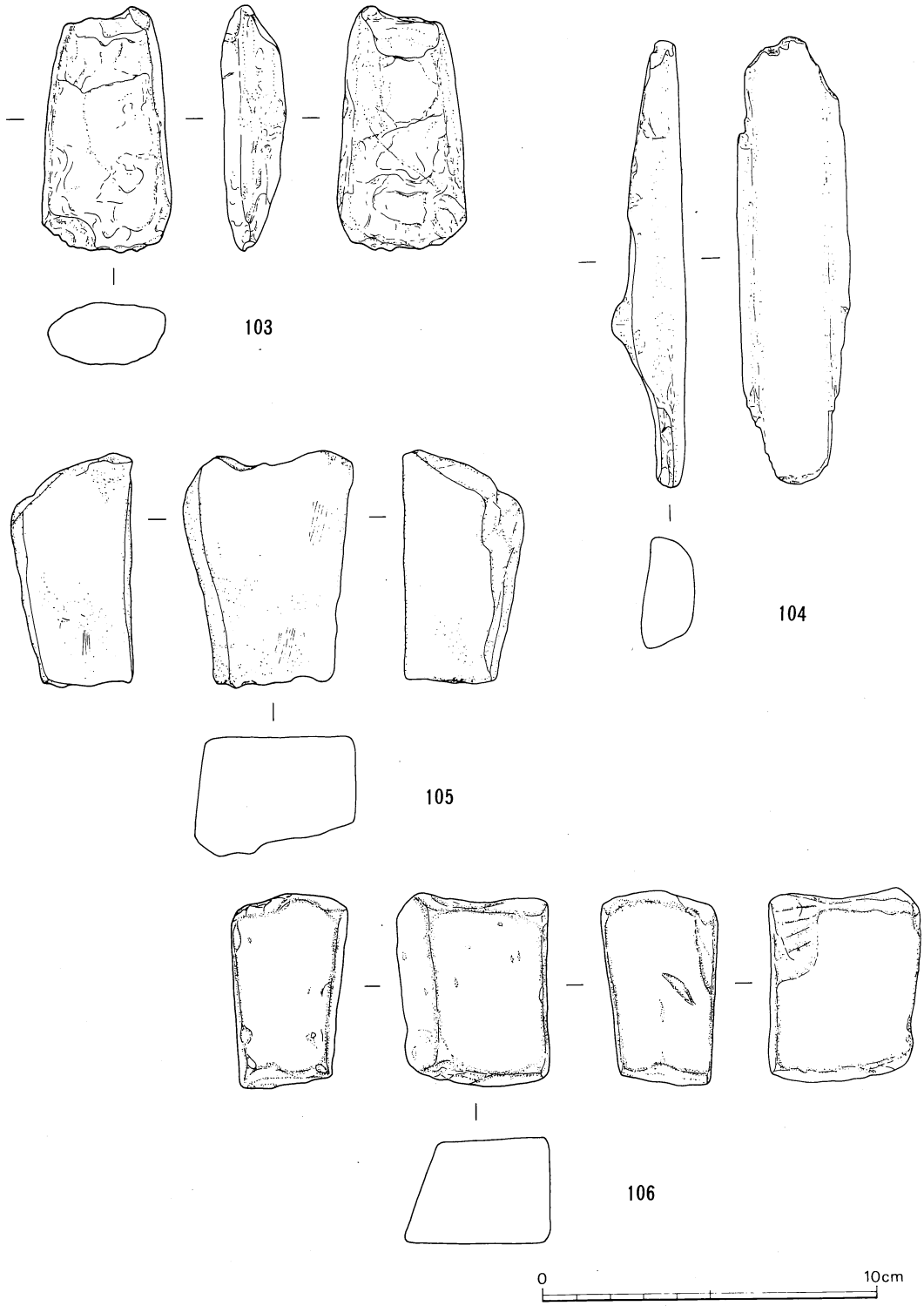
第284図　ＳＤ１　出土遺物



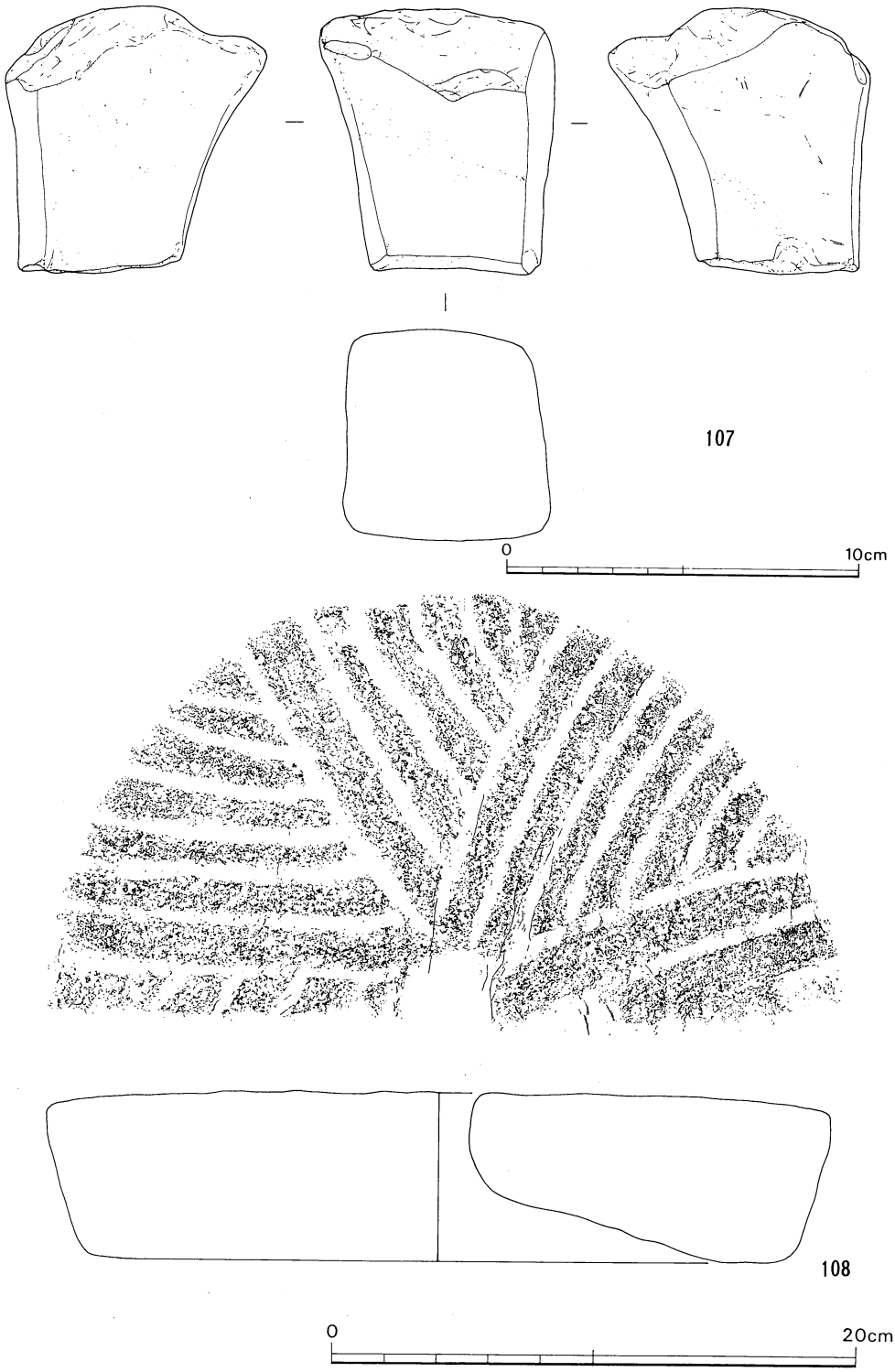
第285図　ＳＤ１・８、ＳＥ１　出土遺物



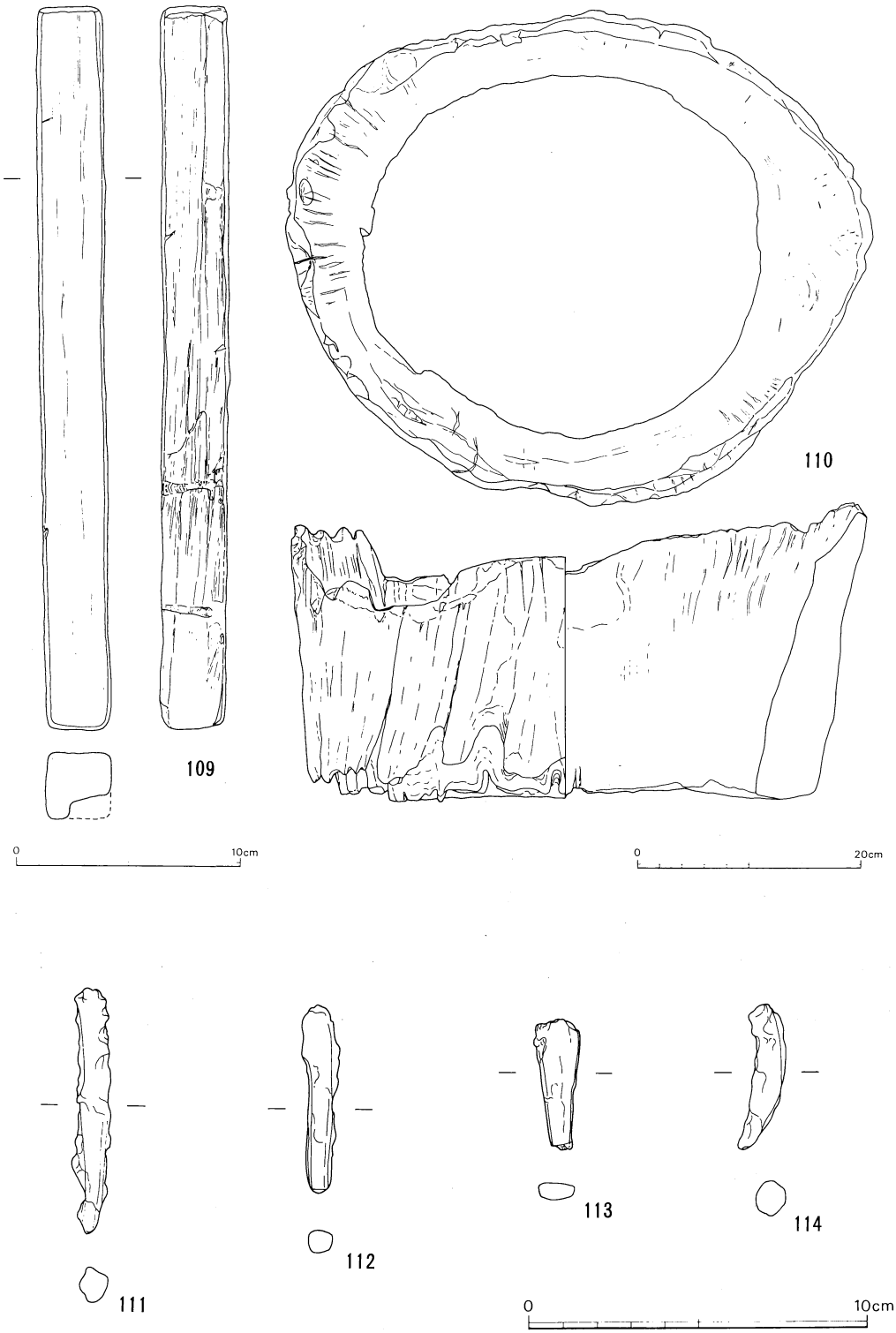
第286図　P 1～15　出土遺物



第287図　ＳＫ59、ＳＤ１、ＳＥ１　出土遺物



第288図　ＳＫ14、ＳＤ１　出土遺物



第289図　ＳＤ１・３、ＳＥ１、Ｐ12・14　出土遺物

執　筆　分　担

1．Loc. 22　　廣田
2．Loc. 23　　角谷
3．Loc. 25　　出原
4．Loc. 26　　出原
5．Loc. 28　　角谷
6．Loc. 30　　松田
7．Loc. 31　　松田
8．Loc. 32　　下村
9．Loc. 33　　下村

高知空港拡張整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

田村遺跡群第8分冊

本文 Ⅷ

1986年3月31日

編集・発行　高知県教育委員会
印　　刷　西村謄写堂